

令和元年度 自己点検・評価報告書

鹿児島工業高等専門学校

はじめに

鹿児島工業高等専門学校は、令和 2 年 3 月 24 日（火）に外部評価委員会を開催しました。本報告書は、その審議と意見交換の概要、外部評価委員からの講評をまとめたものです。

本校は毎年、独立行政法人国立高等専門学校機構（高専機構）に年度計画とその実績報告を提出しています。今回の外部評価に当たっては、高専機構に提出した令和元年度の年度計画・実績を再整理し、自己評価を加え、外部評価委員会の資料としました。この資料を事前に委員の皆様へ送付して質問事項と指摘事項を提出していただき、それらを事項別に分類してそれぞれを学内担当者に渡し、学校としての回答をまとめました。

外部評価委員会には、鹿児島大学大学院理工学研究科長の本間様に委員長に就任していただきました。委員会では、まず本校がスライドを用いて本校の概要と特色について説明しました。その後、委員の皆様から事前に頂いた質問事項や指摘事項に学校側が回答するという形で進めました。

外部評価委員会では、本間委員長に各委員から寄せられた指摘事項を要約していただき、その中でも特に重要な事項を 3 点に絞って整理していただきました。本校では、ご指摘いただいた 3 点の講評を令和 2 年度の事業計画に盛り込み、業務改善に努めて参ります。

本報告書をご確認いただき、今後とも忌憚のないご意見やご批判を賜りますようお願い申し上げます。

鹿児島工業高等専門学校
校長 氷室 昭三

目 次

はじめに

第1部 令和元年度 自己点検・評価報告書

1 教育に関する事項	7
2 社会連携に関する事項	13
3 国際交流等に関する事項	15
4 管理運営に関する事項	18
資料 ①～⑦	21～29
自己点検・評価報告書に対する外部評価委員からの 事前質問等と回答	30

第2部 令和元年度 外部評価報告書

1. 令和元年度外部評価委員会委員名簿	38
2. 令和元年度外部評価委員会委員出席者名簿	39
3. 令和元年度外部評価委員会列席者名簿（鹿児島高専）	40
4. 令和元年度鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会実施要領	41
5. 令和元年度外部評価委員会日程表	42
6. 鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則	43
7. 外部評価委員会議事録（一部要約）	44
8. 外部評価委員会講評	65

第 1 部

令和元年度 自己点検・評価報告書

令和元年度 自己点検・評価報告書

大項目	評価項目
1 教育に関する事項	(1) 入学者の確保
	(2) 教育課程の編成等
	(3) 優れた教員の確保
	(4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム
	(5) 学生支援・生活支援等
2 社会連携に関する事項	(1) 情報発信
	(2) 科研費と外部資金
	(3) 地域連携
	(4) 鹿児島高専テクノクラブ(KTC)
3 国際交流等に関する事項	(1) 海外インターンシップの推進及び海外インターンシップ生の受入
	(2) 学生交流による海外派遣及び受入
	(3) 海外学術交流協定校との研究者交流
	(4) 英語力向上のための取組
	(5) 国際交流イベント及び会議への出席
4 管理運営に関する事項	(1) 校長裁量経費
	(2) 業務効率化(経費節減)
	(3) 研修、表彰、人事交流
	(4) 法令遵守やセキュリティに係る研修実施等

鹿児島工業高等専門学校

1 教育に関する事項

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
1-(1) 入学者の確保	①-1 ・中学生向けパンフレットや学校説明会等で使用する資料の内容を、中学生の目線で必要な情報が一目でわかるような分かりやすいデザイン・情報に更新するとともに、それらの情報をHPに掲載する。 ①-2 ・効率的、効果的、持続的な入試広報を実施することにより安定的な志願者の確保を目的に「入試広報プロジェクト・チーム(PT)」を設置し、高校説明会等では、入試広報PTの教員を派遣し、説明内容・方法等の質の向上を図る。 ①-3 ・霧島地区の中学校長会及び高等学校長会に出席し、高専についての状況説明や中学校側との情報交換を活発に行い、高専への理解の促進を図る。	①-1 ・中学生向けパンフレットの内容を全面的に更新し、鹿児島県内の全中学校(191校)、宮崎県南部の中学校(73校)へ配布した。また、パンフレットを参考にして、受験生及び保護者向けのHP作成について教務委員会で検討し、今年度中の完成を目指し10月に発注した。 ①-2 【資料①】 ・入試広報に係る内容・方法を改善し、効果的な入試広報を実施するための入試広報プロジェクト・チーム(PT)を5月に設置し、5月から7月に実施された高校説明会では、入試広報PTの教員を鹿児島県内の中学校(69校)へ派遣し、入試広報に係るPR活動を行った。 ①-3 ・霧島市中・高校長連絡協議会(7月5日(金)、11月12日(火)開催)に、教務主事及び教務主事補が出席し、本校のPRを行うとともに、他校との情報交換を行った。	A
	② ・各種イベント情報について、チラシやポスターをはじめ、メディア(雑誌・新聞・ラジオ・ケーブルテレビ等)も活用して広く情報発信する。	② 【資料②】、【資料③】 ・本校主催のイベント情報については、ホームページ・チラシ・ポスター等を有効的に活用し、広く社会に情報発信するとともに、以下のメディアを活用し本校のPRを行った。 1)入学式、校長インタビュー、高専祭(南九州ケーブルテレビネットで放送) 2)サッカー部全国高専大会三連覇、ロボギャルズの中学校及び離島訪問(南日本新聞、南海日日新聞、奄美新聞掲載) 3)一日体験入学、入学試験ポスター等(JR隼人駅掲示)	A
	③ ・女子生徒へのPR活動について、一日体験入学における「女子中学生との交流会」、「ロボギャルズによるワークショップ」を計画する。また、「ロボギャルズ」を活用し、小・中学校の女子生徒を対象とした企画を計画し、本校女子学生と女子中学生が交流できる機会を設ける。	③ ・8月4日(日)開催の一日体験入学では、学生生活について理解が深まるよう、「女子中学生との交流会(茶話会)」、「ロボギャルズによるワークショップ」、「部活動紹介」、「進学相談」等を設け、中学生と保護者への理解を図った。なお、一日体験入学には中学生405名及び保護者340名の参加があった。 ・9月7日(土)に本校主催「高専女子フォーラム」を九州大学伊都キャンパス椎木講堂で開催した。本校含め九州沖縄地区の6高専7キャンパス及び企業38社から総勢112名の参加があり、研究テーマ紹介や研究成果発表を通じて活発な交流が行われた。 ・9月13日(金)・14日(土)に、「ロボギャルズ」が奄美大島の小学校を訪問し、ワークショップを開催した。また、10月12日(土)に枕崎市内の中学校でもワークショップを開催した。 更に、1月29日に「令和元年度かごしま『教育の情報化』フォーラム」(主催:鹿児島県教育委員会)に、「ロボギャルズ」の学生が参加し、県内小中学校を訪問してプログラミングを体験するワークショップを行ったことを紹介するとともに、理系女子学生を増やすための取り組みとその成果について発表を行った。	S
1-(2) 教育課程の編成等	① ・学科再編及び専攻科の充実については、地域ニーズ等を考慮し、平成33年度(2021年度)以降の入学に適用する新しい教育課程について検討する。	① ・前教務主事を中心にワーキンググループを設置し、教員の研究グループを編成するなど、学科改組に向けて検討を重ねてきたが、2021年度(令和3年度)以降の学科再編については、地域ニーズ等を考慮した改組(案)の提案に至らず見送ることとなった。なお、このことについては、5月15日(水)開催の教職員集会において、KOSEN4.0イニシアティブ、Society5.0、学科改組の状況等について説明があり、教職員へ共通理解を図った。 【課題・問題点】 ・地域ニーズ等に関する情報を収集し、必要に応じて学科等の再編及び専攻科の充実に向け教育課程の見直し及び改善を図る。	B

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	② ・長岡技術科学大学との連携教育プログラム(専攻科:建設工学専攻)について、教育プログラムの構築を図る。また、本プログラムへの進学者を1名以上確保する。	② ・長岡技術科学大学との連携教育プログラムでは、教育課程表及び関係規則等の改正手続きが完了し、先方との協定書締結も完了した。今後、厚生補導関係や詳細部分について引き続き検討することとしている。なお、本プログラムへの進学者1名が確定している。	A
	③-1 ・国内インターンシップの参加率について、本科は80%以上、専攻科は60%以上を目指す。 ・企業からの奨学金を活用した海外インターンシップに、専攻科生を2名以上派遣する。 ③-2 ・海外の教育機関との包括的な協定に基づいた海外インターンシップや学生交流を推進する。	③-1 【資料④】 ・国内インターンシップの参加率は、本科が88%、専攻科が44%であった。 ・株式会社IHIプラントからの奨学金を活用した海外インターンシップ(シンガポール)に、専攻科生2名が参加した。 ③-2 ・海外の教育機関との学生交流を下記のとおり実施した。 1)スウェーデン・ストックホルム夏季異文化研修:参加者8名 (R1.8.31~R1.9.11:ストックホルムNTI高校) 2)ハワイ研修2019:参加者10名 (R1.9.1~R1.9.20:ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)) ・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」で2件の学生交流を実施した。 1)ペトロナス工科大学(R1.12.14~R1.12.20:受入学生10名) 2)マレーシア工科大学(R2.1.21~R2.1.27:受入学生10名)	A'
	④ ・学生の英語力、国際コミュニケーション力の向上を目標の一つとしてグローバルエンジニア育成事業を申請する。これまで第5ブロック内で構築してきた協力体制を活かし、組織的な海外派遣を引き続き推進する。	④ ・グローバルエンジニア育成事業に申請し、基礎力養成区分「グローバルエンジニア基礎力としてのICTスキル、問題解決力、グローバルマインド育成事業」で採択された。これまで第5ブロック(九州沖縄地区)内で構築してきた協力体制を活かすとともに、全学的な取組として組織的な海外派遣を引き続き推進する。	A'
	⑤-1 ・全国高専ロボコンを始めとする全国的な大会・コンテストへの学生の参加を積極的に支援する。 ⑤-2 ・第56回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会の主管校として、他の担当校と協力し、大会運営を滞りなく行う。	⑤-1 ・九州沖縄地区高専体育大会に14部活動が参加し、うち7部活動が全国高専体育大会に出場した。また、弓道部も九州沖縄地区弓道大会及び全国高専弓道大会に出場した。この他、高専連合会が主催する大会(高専ロボコン九州沖縄地区大会、全国高専プロコン、全国高専英語ブレコン、全国高専デザコン)に出場した。 ・エコラン部、航空技術研究部、将棋部等の部活動がHondaエコマイレージチャレンジや室内飛行ロボットコンテスト、ETロボコン、全国高専将棋大会等、全国規模の各種大会に出場した。 【選手参加概況(高専連合会関連大会)】 九州沖縄地区及び全国高専体育大会…延べ321名 ロボコン等文化系大会・コンテスト…延べ29名 ⑤-2 ・第56回九州沖縄地区高専体育大会の主管校を担当し、大会全体の運営を総括するとともに、7月及び11月に本校は6競技、他校は8競技担当し全14競技を実施した。本大会では、気象警報発令や災害発生等の不測の事態にも適切に対応し、事故等なく無事終了した。	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	⑥ ・ボランティア活動に関する広範な情報を積極的に提供し、学生のボランティア活動に対する関心を高めるとともに、部活動や学生団体による各種ボランティア活動及び学生と教職員がともに取り組む活動を実施する。	⑥ ・10月16日(水)に、高専祭の準備の一環として、全学生・全教職員で校内一斉清掃を行った。	A'
	⑦-1 ・学生に対して、外部の各種奨学金制度について情報提供し、希望学生が応募できるようにする。 ⑦-2 ・「トビタテ!留学JAPAN」に応募した2件の書類作成や面接対応のノウハウを今後の応募希望学生等にフィードバックする。また、多数の応募(採択)学生を輩出している高専と連携しながらバックアップ体制の構築について検討する。	⑦-1 ・学生及び保護者に対し、学内掲示板やmoodleへの掲載、各教室への掲示等、文書及びHPを通じて、各種奨学金(日本学生支援機構、市町村、民間財団等)、就学支援金、奨学のための給付金に関する情報提供するとともに、必要に応じて説明会を開催するなどし周知を図り、複数の採択に至った。 1)JASSO(海外留学支援制度・協定派遣):6名(スウェーデン) 2)IHI奨学金:2名(シンガポール:企業インターンシップ®(Jurong Engineering Limited)) 3)国費高校生留学促進事業・グローバル人材育成の基盤形成事業:7名(ハワイ) ⑦-2 ・「トビタテ!留学JAPAN」の応募説明会を、10月30日(水)に低学年対象、31日(木)に高学年対象で開催し、それぞれ11名、19名の参加があった。 応募希望学生には昨年度採択された2件の事例を参考に、申請書類の作成から面接における留意点等を詳細に説明し今後も綿密にコミュニケーションをとり対応する。また、多数の応募(採択)学生を輩出している高専とは引き続き連携をとり、バックアップ体制の構築を推進する。	A
1-(3) 多様かつ優れた教員の確保	① ・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることを原則として公募する。	① ・機械工学科1名、電子制御工学科1名、情報工学科1名、都市環境デザイン工学科2名の新規教員採用において公募制による採用活動を行い、都市環境デザイン工学科については2名の採用が決定した。なお、機械工学科、電子制御工学科及び情報工学科については採用には至らなかった。 【本校の現状】 専門科目:博士の学位や高度な資格を持つ者93% 一般教育科:修士以上の学位や優れた教育力を有する者95% 【課題・改善策】 ・3学科で採用に至らなかったことから、引き続き教員公募を実施する。なお、定年退職教員に係る科目等については、再雇用教員等での対応を検討する。	A'
	② ・多様な教員を配置することを念頭に、クロスアポイントメント制度を適用することが可能な領域についても、採用を検討する。 クロスアポイントメント制度: 研究者等が大学や公的研究機関、民間企業の間で、それぞれと雇用契約関係を結び、それぞれの機関での役割に応じて研究開発や教育に従事することを可能にする制度	② ・クロスアポイントメント制度を適用することが可能な領域について採用を検討したが、同制度が適用可能な領域の教員公募はなかった。今後も多様な教員を配置することを念頭に、クロスアポイントメント制度を適用することが可能な領域について検討する。	A'
	③ ・外国人を教員候補者として積極的に選考する。	③ ・外国人も応募可能な教員採用の公募を3件(専門3件、一般科目2件)実施し、一般科目の公募で1件の応募があり、選考委員会を開催し採用することとなった。今後も外国人も応募可能な教員公募を積極的に実施する。	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	④ ・高専間及び長岡・豊橋両技術科学大学との連携を図るため、交流・研修等に関する教員アンケートを実施し、教員人事交流を推進する。	④ ・人事交流・研修等に関する教員アンケートを4月中旬に実施したところ、1名の教員から希望があり相手方との調整を図ったが派遣には至らなかった。今後も、高専間・技術科学大学との連携を図る人事交流を積極的に推進する。	A'
	⑤ ・FD研修会(教職員集会)を実施し、優れた教員による教育実践事例を紹介する。また、高専機構本部による研修や専門機関等が実施する研修やFDセミナー等への教員の派遣を行う。	⑤ ・教職員集会等を活用し次のFD研修会を実施した。 1)5月15日(水)「CBT結果に係るフィードバック」(前教務主事) 2)7月10日(水)「有明高専、米子高専の事例紹介、学生のやる気について」(校長) ・高専機構本部や外部の専門機関主催の下記研修・セミナーに参加した。 1)8月31日(土)～9月1日(日)開催の日本高専学会第25回年会講演会に校長及び機械工学科教授1名が参加。 2)12月13日(金)開催の特別支援教育総合推進事業における教育講演会に機械工学科教授1名参加。 3)12月25日(水)・26日(木)開催の全国教務主事研修会に副校長(教務主事)が参加。 CBT: Computer Based Testingの略で、問題用紙やマークシートなどの紙を使わず、コンピュータで受験する方式のテスト	A'
1-(4) 教育の質の向上 及び改善	①-1 ・モデルコアカリキュラム(MCC)対応について、教務委員会で確認し検討を行う。 ①-2 ・質の保証を検証するツールとして、CBTを利用し、また、試験結果を分析していく。	①-1 ・次年度用Webシラバスの更新について、モデルコアカリキュラム(MCC)対応の確認を教務委員会で行った後、各科目担当教員がWebシラバスの記載内容について更新した。 ①-2 ・今年度のCBTは、12月から1月にかけて実施し、試験結果については分析のうえ教務委員会に報告した。	A'
	②-1 ・授業評価アンケートを前・後学期に実施し、担当主事補がアンケート結果を分析して教務委員会へ報告する。また、分析結果については、各科目担当教員へ報告する。 ②-2 ・FD委員会を開催し、授業内容及び授業方法について確認するとともに、教員相互の授業参観(授業力アップアクティビティ)を後学期に計画する。	②-1 ・前学期末試験期間中に前学期に係る授業評価アンケートを実施し、担当主事補による集計・分析が行われ、集計結果・分析結果を教務委員会へ報告した。なお、後学期に係る授業評価アンケートも同様に実施する。 ②-2 ・FD委員会及び教務委員会で教授方法等の改善、授業における疑問や問題点の共有・解決等について検討し、授業力アップアクティビティに係る実施要綱(実施時期・対象科目・担当者等)を作成して、後学期(10月～2月)に全学科(一般教育科含む)で実施した。	A'
	③ ・専攻科必修科目である「環境創造工学プロジェクト」は、異分野の事例に対しての問題解決型の「総合教育プログラム」となっており、エンジニアリングデザイン教育の観点から、PBL課題として公衆の衛生、安全、文化、社会、環境に係る問題について検討を行っていく。	③ ・「環境創造工学プロジェクト」のPBL課題について過去3年で実施したテーマについて情報収集を行った。今後、専攻科委員会でPBL課題の現状について確認するとともに、課題設定について検討していく。	A'

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	④ ・K-SECで開発された情報セキュリティ教材等を学内全学科に配付し、各学科における情報セキュリティに関係する科目の充実を図る。 K-SEC: KOSEN Security Educational Community 高専サイバーセキュリティ人材育成事業	④-1 ・佐世保高専を主幹校とし、第5ブロック内における高専サイバーセキュリティ人材育成事業(K-SEC)を実施している。本校においては、教務委員会を中心にK-SEC教材利用についての最新情報を全学的に発信し、K-SEC教材の利活用を推進している。 ・K-SEC研修を修了した学生3名に対し、9月11日(水)に鹿児島県警から委嘱状が交付された。また、同学生により9月17日(火)・18日(水)の両日、奄美市立赤木名中学校、龍郷町立大勝小学校で児童・生徒を対象に「サイバーセキュリティに関する授業」を実施した。	A
	⑤ ・大学改革支援学位授与機構が実施する高等専門学校機関別認証評価を受審するとともに、評価結果における課題や改善策等については速やかに対応する。	⑤ ・令和元年度高等専門学校機関別認証評価受審にあたり、自己評価書を6月28日(金)に提出し、10月17日(木)・18日(金)に訪問調査を受審した。 【課題・改善策】 ・評価結果については、現在評価結果(案)が示されている段階で3月末に決定し公表される。なお、現段階において改善を要する項目(案)については、担当部署において関係規則の整備等改善策の策定に着手したところである。	A'
1-(5) 学生支援・生活 支援等	① ・外部カウンセラー等によるカウンセリングを充実させ、特別な支援を要する学生の早い段階でのサポートに努めるとともに、内外の関係各所と連携し、学生のメンタルヘルスケアの充実を図る。	① ・カウンセリングの充実を目指し、前年度に引き続き、外部カウンセラー3名と相談員3名を配置した。また、後学期からは、スクールソーシャルワーカー(SSW:非常勤職員)を採用し、これまで教職員では対応が困難であった問題を多角的な側面から分析してもらい、学生が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携調整等を行うことで、問題の早期解決のための体制整備を図った。 ①-2 ・11月13日(水)の教職員集会において「スクールソーシャルワーカーについて」と題し、同SSWによる講演を実施した。 ①-3 ・6月19日(水)に、本科3年生を対象として、外部から講師を招き、自殺予防対策講演会を実施した。	A
	② ・高専機構及びその他の機関が主催するメンタルヘルスや障害学生支援に関する研修に教職員を積極的に参加させ、研修会・講習会で得られた学生支援に関する情報のうち、学生指導に有益な情報については学内で共有する。	② ・高専機構及びその他の機関が主催するメンタルヘルスや障害学生支援に関する研修に学生何でも相談室長及び保健室看護師が参加した。 1)「平成31(令和元)年度九州沖縄地区高専学生相談室長連絡協議会」(6月6日(木)～6月7日(金)、有明高専) 2)「令和元年度鹿児島県立鹿児島高等学校」(7月30日(火)、鹿児島県立鹿児島高等学校) 3)高専機構主催「全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修」(9月9日(月)～9月10日(火)、東京都)	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	③-1 ・日本学生支援機構による奨学金制度(貸与型・給付型)についてHP及び説明会を通じて周知を図る。また、学生個々の状況に応じた奨学金を受けられるよう支援するとともに、日本学生支援機構以外の各種奨学金、様々な就学支援制度についても、HPを利用し、周知を図る。 ③-2 ・学生委員会において、学生に対する就学支援・生活支援のための入学科免除・授業料免除等を適切に遂行する。	③-1 ・日本学生支援機構(貸与型・給付型)や県育英財団を始めとする各種奨学金についてHPや説明会を通じて周知し、申請手続きを行った。 (貸与型奨学金) 受給者総数 日本学生支援機構…126名、鹿児島県育英財団…43名 (給付型奨学金) 受給者総数 日本学生支援機構…4名、上田記念財団奨学金…3名 天野工業技術研究所奨学金…1名 ・令和2年度日本学生支援機構給付奨学金制度を対象者(本科3年生)に案内し、応募があった40名全員の申請を行った。 ・日本学生支援機構以外の奨学金や就学支援制度についてもHPで案内を行っている。 ③-2 ・学生委員会において、令和元年度入学科免除及び前期授業料免除の手続きを適切に行った。実績は以下のとおり。 (入学科免除) 免除…0名 (授業料免除) 前期:全額免除…43名、半額免除…20名 後期:全額免除…45名、半額免除…16名	A
	④ ・各学科の担任及び学科長と連携し、就職問題懇談会申合せに基づく就職支援体制を構築する。 ・業界研究を目的とする合同企業セミナーを低学年の学生も参加可能な企画内容に一部改めて実施する。 ・学外の専門家による実務セミナーや学外で実施される高専生を対象とした合同企業説明会に学生を参加させる。 ・卒業生及び修了生を対象にアンケート調査を実施し、キャリア支援の改善を図る。	④ ・9月上旬に各学科の担任と協議を行い、令和元年度の就職支援体制(求人面談の実施手順や合同企業説明会の開催形態等)を決定した。 ・令和2年1月11日に、就職支援関連行事を催行する業者の協力を得て、本校第一体育館にて「合同企業セミナー」を開催し、本科4年生と専攻科1年生が参加した。 ・学習支援システムmoodleを利用して、学外で開催される高専生を対象とした合同企業説明会の案内を行っている。	A
	⑤ ・国立高等専門学校機構施設整備5か年計画に基づき、2019年概算要求にて、グローバル・アクティブ・ラーニングセンター(図書部門)及び第一志学寮の改修、ライフライン再生(給排水設備等の更新)を実施する。	⑤ ・グローバル・アクティブ・ラーニングセンター(図書部門)及び第一志学寮の改修においては、8月に設計を完了し9月より工事を実施しており、2月末に竣工予定である。また、ライフライン再生(給排水設備等の更新)においては、11月に施工業者が決定し現在工事を実施しているところである。	A'
	⑥ ・安全安心な教育研究環境の確保を図るため、必要に応じて、老朽劣化した外壁等の落下防止対策を行う。	⑥ ・安全衛生委員会の職場巡視において、外壁等の落下危険箇所の確認を行っており、福利施設1階軒下及び情報工学科棟4階男子トイレ壁について、落下対策工事を9月に実施した。 【課題・改善策】 ・大規模な施設改修等には、概算要求・営繕事業要求等により予算の確保が必要となることから、日ごろから関係各所と連携を図り、実現可能な計画を検討するとともに、国及び高専機構の施設整備の方針を踏まえて効果的に予算要求を行う。	A'

<自己評価の標語> S:目標以上に達成している A:達成している A':概ね達成している B:一部達成している C:達成していない

2 社会連携に関する事項

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
2- (1) 情報発信	①-1 ・地域共同テクノセンターが中心となり、HP内に教員の研究分野や共同研究・受託研究等の成果をまとめたページを新設して広く情報発信する。また、企業が必要とする情報をダウンロードできるように改善する。 ①-2 ・地域共同テクノセンターを中心に、地域連携に関する情報を積極的にHPに掲載し情報発信する。 ①-3 ・学生の活躍・活動について、メディア(新聞社・FM局・ケーブルテレビ局等)に積極的に情報提供を行い、記事の掲載等に繋げるとともに、取り上げられた報道内容は随時機構本部に報告する。	①-1 ・教員の研究分野や業績等について、HPの各学科の教員一覧から教員毎にリサーチマップにリンクし確認できるように改善した。これにより、外部からのアクセスで教員毎の研究業績等の閲覧が可能となり、社会に対し広く情報発信できるようになった。 ①-2 ・地域共同テクノセンター所掌のイベント(鹿児島高専テクノクラブ(KTC)技術研修会、ニューライフカレッジ霧島、COC+事業等)について、開催の都度HPに掲載し情報発信した。 ①-3 ・学生の活動等について鹿児島県記者クラブへ取材依頼を行い、ロボギャルズやサイバー犯罪ボランティアの離島での活動等、新聞社の記事掲載に繋がる効果があった。 また、学生(学生会、寮生会)がMBCラジオに生出演し、本校のPRを行った。 リサーチマップ(Researchmap): 研究者に必要な情報発信・情報共有ツールを包括して提供する新世代研究基盤システム	A
	②-1 ・新聞社、FM局、市役所広報部署、ケーブルテレビ局等とより良い関係を構築できるように、定期的に情報交換するとともに記事の提供等を積極的に行う。 ②-2 ・地元新聞社と締結している連携協定をモデルとして、他のメディアとの協定締結について検討する。	②-1 ・年度当初、校長・教務主事が地元新聞社、FM局、ケーブルテレビ局、市役所広報部署へ出向き本校の年間行事予定表を配布し行事の内容について説明した。これにより、入学式、一日体験入学、高専祭等の定例行事において南九州ケーブルテレビの取材があり放映された。また臨時に行った出張オープンキャンパス等についても情報提供し、新聞社等の取材があった。 ②-2 ・(株)南日本新聞社との連携協力協定をモデルとして、南九州ケーブルテレビネット(株)と今年度内の協定締結に向け準備中である。	A
2- (2) 科研費と外部資金	① ・大型研究費を獲得した大学教員等による外部資金獲得に向けた講演会の開催及び高専機構主催の外部資金獲得に向けたガイダンスに参加し、外部資金への応募・採択件数の増加を目指す。	① 【資料⑤】 ・令和元年度の科学研究費助成事業の新規採択は11件(平成30年度から7件増加)であり、継続分(8件)と合わせると19件となった。 ・9月6日(金)に第3ブロック(主査:富山高専)主催の研究力向上と科研費獲得のための研究発表会(テレビ会議)で、本校教員2名が研究発表を行い、発表者の研究分野に対応した大型補助金獲得実績のある高専等の教員と意見交換した。 ・令和元年度教員の科研費応募数(令和元年11月締切)は54件であり、昨年度(64件)を下回った。(今年度の新規採択者の増加や退職者増加による、申請者の減少) ・10月2日(水)に大型研究費獲得実績のある他高専教員(本校OB)による科研費等外部資金獲得のための講演会(27名参加)を実施した。	A'

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	② ・外部資金(科学研究費助成事業、共同研究、受託研究、受託試験、奨学寄付金等)獲得に向け積極的に取り組む。	② ・令和元年度外部資金総額 80,415千円 (R01年12月末現在) ・平成30年度外部資金総額 103,644千円 (H30年度実績) 令和元年度は、科研費の採択増はあったものの、大型プロジェクト(受託研究等)の採択(継続分含む)がなかったため、昨年度実績を13%程度下回る見込である。なお、外部資金獲得については引き続き積極的に推進する。	A'
2-(3) 地域連携	① ・COC+事業の取り組みとして、「COC+高専」地方創生推進会議の構成団体であるKTC会員企業の経営者・技術者、霧島市・日置市職員等による特別講義や地域企業見学を実施する。	①【資料6】 ・COC+事業の取り組みとして次のとおり実施した。 1)4年生全学科を対象に地域企業特別講義を6月～8月に実施した。 2)3年生全学科を対象に地域企業見学を11月～12月に実施した。 3)2年生全学科を対象に地方創生特別講義を11月～12月に実施した。 4)1年生全学科を対象に地域企業特別講義を11月～12月に実施した。 【課題・改善策】 ・COC+事業に係る補助事業期間(H27～R1年)が今年度で終了することから、次年度以降の「COC+高専」事業の在り方について、鹿児島高専テクノクラブをはじめとし関係各所と検討する。	A
	② ・本校学生及び保護者に対し、地域企業への理解を深めるための地域企業研究会やセミナーを実施する。	② ・5月26日(土)に保護者向けの校内合同企業セミナーを実施し、KTC会員企業31社、保護者126名、学生16名の参加があった。 ・1月22日(水)にKTC・霧島市合同企業研究会を開催し、地域企業58社(内KTC会員企業48社)及び学生等220名が参加した。	A
2-(4) 鹿児島高専テクノクラブ(KTC)	① ・本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ(KTC)と連携し、技術研修会等において、本校シーズと企業のニーズをマッチングする企画を行い、共同研究への推進を図る。	① ・6月 7日(金)に鹿児島高専テクノクラブ総会、第1回役員会・技術研修会を開催し、企業技術者等67人の参加があった。 ・9月 6日(金)に鹿児島高専テクノクラブ第2回役員会・技術研修会を開催し、企業技術者等65人の参加があった。 ・3月13日(金)に鹿児島高専テクノクラブ第3回役員会・技術研修会を開催予定である。 ・現在、鹿児島高専テクノクラブ会員企業と2件の共同研究を行っており、新たに2件の共同研究を計画中である。	A'
	②-1 ・本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ(KTC)と連携し、会員企業セミナー等においてインターンシップに関する情報を直接学生に提供し、地元企業におけるインターンシップの推進を図る。 ②-2 ・地元企業との共同研究に参加した学生の卒業研究・特別研究から最優秀課題を選考し、表彰する制度(KTC会長賞)を実施する。	②-1 ・鹿児島高専テクノクラブ(KTC)と連携し5月に企業セミナー、1月に企業研究会を開催し地域企業に対する理解を深める企画を計画し、インターンシップに関する情報も提供している。今年度は5月25日(土)にセミナー、1月22日(水)に研究会をそれぞれ実施した。 また、KTC会員企業におけるインターンシップについては23名の学生が体験した。 ②-2 ・例年KTC会員企業との共同研究に参加した学生(卒業研究・特別研究)を対象に、最優秀課題を選考しKTC会長賞として表彰しており、今年度も同様に実施する。	A'

<自己評価の標語> S:目標以上に達成している A:達成している A':概ね達成している B:一部達成している C:達成していない

3 国際交流等に関する事項

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
3-(1) 海外インター シップの推進及 び海外インター シップ生の受入	① ・海外学術交流協定校等とのインターンシップ学生の派遣及び受入を推進する。	①【資料⑦】 ・海外学術交流協定校に1名、海外2企業に3名の学生を海外インターンシップ生として派遣した。 1) トウールーズIUT(フランス) 1名: 2019.4.8～4.19 2) MK Watertech.Co.Ltd(タイ) 1名: 2019.8.20～9.18 3) Jurong Engineering Limited(シンガポール) 2名: 2019.8.29～9.13 ・海外学術交流協定校から2名の学生をインターンシップ生として、KTC会員企業に受入れた。 1) 株式会社ベルテ: 2019.4.21～6.28 2) 株式会社アルバック九州: 2019.4.17～6.28	A'
	② ・日系企業等の協力を得ながら、海外インターンシップを推進する。	② ・企業からの寄付(奨学金)により、シンガポールでの海外インターンシップを実施し、2名の学生(専攻科生)が参加した。 Jurong Engineering Limited(シンガポール) 2名: 2019.8.29～9.13 (再掲)	A
	③ ・学生の参加を推進するための補助を検討するとともに、現行の海外インターンシップを安全に充分配慮して実施する。	③ ・海外インターンシップに係る学生の渡航費の一部を本校国際交流基金から補助するよう体制を整えた。要件を満たした学生に渡航費の一部の補助を支給している。 ・海外インターンシップ参加学生には全員、有事の際に日本語で24時間サポートを受けられるアシスタンスサービスに加入することを義務付けている。インターンシップ参加学生のうち1名が渡航したタイにおいて、外務省海外安全ホームページで危険レベル1～3の地域があるので、現地での安全対策について事前学習を行った上で渡航し、無事に帰国した。	A'
3-(2) 学生交流による 海外派遣及び受入	① ・海外異文化研修及び海外語学研修等を実施する。	① ・学内外で企画された4つの海外研修プログラムに、27名の学生から参加希望があった。このうち2名が参加予定であった香港でのプログラム(熊本高専担当)、及び7名が参加予定であった台湾でのプログラム(鹿児島高専担当)については、外務省海外安全ホームページ等での危険レベル引き上げや新型コロナウイルスの影響を考慮し実施を見送ることとした。 このことから、学生交流に係る派遣については18名の学生にとどまった。 【課題・改善策】 ・香港における大規模デモや昨今の新型コロナウイルス等、外的要因により事業の縮小・延期・中止等の判断を求められるケースがある。常に国際情勢等に係る正しい情報を収集するとともに、学生及び引率教職員等の安全を第一に考え的確に対応する。	B

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	② ・海外教育機関からの外国人留学生受入を継続する。	② ・海外教育機関3校から計24名の学生を受け入れた。 ・外国人学生受入プログラムでは、優秀なアジア地域の青少年を日本に招へいし、アジア地域と日本の科学技術に貢献することを目的としている「さくらサイエンスプラン」への申請等で、外国人学生の経済的負担を軽減することができた。令和元年度は2件申請し、2件とも採択され、受入が実現した。昨年度の反省を生かして学生交流の機会を多く取り入れることで、採択率が向上した。(平成30年度:3件申請のうち2件採択)	A
	③ ・各種申請や補助金を利用して、今後も学生の海外派遣を継続する体制を構築する。	③ ・本年度実施した語学研修プログラムについて、文部科学省の「国際文化交流促進費(高校生国際交流促進費)」補助金を申請し、採択された。 ・本年度実施予定の海外研修プログラムについて、日本学生支援機構の「海外留学支援制度(協定派遣)」に1件申請し、採択された。 ・学生5名が、2020年度の留学計画を「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム【高校生コース】」に応募する予定である。 ・その他の海外研修プログラムについて、学生の渡航費の一部を本校後援会から補助することとなった。	A'
3-(3) 海外学術交流協 定校との研究者 交流	① ・教員の海外学術交流協定校への派遣を積極的に推奨する。	・学生交流や海外インターンシップ引率の機会を活用して海外学術交流協定校等を訪問し、今後の交流についての打合せを行った。ただし、当初予定していた香港及び台湾との交流については国際情勢等を考慮し中止することとなった。	B
	② ・海外教育機関から教員を招へいする。	・海外学術交流協定校等5校から計8名の教員を受け入れた。 1) トゥールーズIUT(フランス)2名 2) スtockホルムNTI(スウェーデン)1名 3) ペトロナス工科大学(マレーシア)1名 4) スtockホルムNTI高校(スウェーデン)3名 5) マレーシア工科大学(マレーシア)1名	A
3-(4) 英語力向上のた めの取組	① ・学生向け英語コミュニケーション能力向上のための取組を実施する。	・6月:スウェーデン人講師を招へいし、学生19名、地域小中学生27名を対象に「VRに関するワークショップ」を英語で開催した。 ・1月:スウェーデン人講師を招へいし、学生14名、地域小中学生6名を対象にVRワークショップを英語で開催した。	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	② ・教職員向け英語コミュニケーション能力向上のための取組を実施する。	② ・今年度採択された、グローバルエンジニア育成事業の予算を活用し、3月に専門業者へ依頼して「教職員向けセミナー」を実施する。 このセミナーでは、以下の内容について体験させ、必要な能力を修得させる。 1)異文化交渉のシミュレーション 2)コミュニケーションの実践 3)海外で起こりやすい問題と障害の紹介 4)コンフォートゾーンの恐ろしさ 5)異文化間の落とし穴や異文化の分析 6)ビジネス現場での問題(日本人、外国人からの声) 7)英語力以外に身に付けるべき一般教養力 等	A'
3-(5) 国際交流イベント 及び会議への出席	① ・日本文化勉強会、九州沖縄地区留学生交流研修会、九州地区の工場見学、各種の地域国際交流イベントへ留学生を参加させる。	① ・令和元年9月、「霧島市国際交流協会 国際親善レガッタ大会」に留学生1名が参加予定であったが、大会が中止になった。 ・令和元年11月、霧島ふるさと祭り国際交流ブースにて留学生3名が出身国の紹介ポスターを展示した。 ・本校の留学生・チューター・教職員及び学外の留学生支援関係者(地域の国際交流員、里親)等が出席し、相互の情報・意見交換をして交流を深める目的で外国人留学生支援懇談会を3月に実施する。	A'
	② ・国際シンポジウムに参加する。	② ・令和元年8月福岡県北九州市にて行われた「次世代エンジニア育成国際ハッカソン」に学生1名が参加し、海外の学生とアイデアを出し合い、発表等を行った。	A
	③ ・県内外の各種国際交流関連会議及び各種国際フォーラムに出席し、情報収集を行う。	③ ・令和元年5月に中国で開催された国際フォーラム『JST日中大学フェア&フォーラム in China』に校長及び副校長(国際交流担当)が参加し、研究内容の紹介や鹿児島高専のPR、中国の中・高等教育機関との連携に関する意見交換を行った。	A

<自己評価の標語> S:目標以上に達成している A:達成している A':概ね達成している B:一部達成している C:達成していない

4 管理運営に関する事項

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
4-(1) 校長裁量経費	① ・校長裁量経費を確保し、その一部を公募型にし、また外部資金獲得推進のため、外部資金獲得者については校長裁量経費から研究費を追加配分することで、教職員の積極的な教育研究活動を後押しする。	① ・公募型 令和元年度 応募件数51件、採択件数51件 (学会発表39件(国内29件、海外10件)、論文掲載料7件、新任教員支援1件、外部資金獲得等4件) ・外部資金獲得 令和元年度科学研究費新規採択者(8名)及びA判定獲得者(2名)に校長裁量経費から5万円を配分	A
4-(2) 業務効率化 (経費節減)	① ・管理部門の経費削減に引き続き取り組み、管理運営の効率化を推進する。	① ・年々減少している本校の運営費において、限られた予算の範囲で効率的な業務運営を行えるよう、一層の経費節減を掲げ、前年度比△3%以上を目指している。 なお決算額には運営費の追加配分による執行を含む。 【令和元年度】 ・当初予算額 35,974千円(前年度比△3.75%) ・決算額 29,255千円←R01.12.31時点 【平成30年度】 ・当初予算額 37,377千円(前年度比△4.52%) ・決算額 59,724千円(前年度比30.50%) * 決算額の前年度比が増となった要因として、周辺住民の安全確保により、急遽、職員宿舍地区の整備を行ったものであり、当該整備費を差し引いた場合は、△4.38%となる。 【平成29年度】 ・当初予算額 39,148千円(前年度比△5.60%) ・決算額 45,765千円(前年度比 1.95%)	A'
4-(3) 研修、表彰、人事 交流	① ・機構本部の主催する「管理職研修」等への参加を推進する。	① ・「管理職研修」へ1名参加し、管理運営の在り方等について情報交換を行った。	A'
	② ・九州・沖縄地区国立大学法人等第5ブロック研修会への参加を推進する。	② ・国立大学法人等事務系・技術系新規採用職員研修(鹿児島大学主催、2名参加) ・公文書管理研修Ⅰ(独法向け第1回)(国立公文書館主催、1名参加) ・西日本地域高等専門学校技術賞員特別研修会(電気・電子系)(明石工業高等専門学校主催、1名参加) ・第5ブロック国立高等専門学校技術職員研修(建設系、建築系、化学・生物系)(熊本高等専門学校主催、1名参加) ・九州地区国立大学法人等テーマ別研修(佐賀大学主催、1名参加) ・九州地区国立大学法人等係長研修(鹿児島大学主催、1名参加) ・鹿児島県内国立大学法人等係長研修(鹿児島大学主催、1名参加) ・九州地区国立大学法人等技術専門員研修(鹿児島大学主催、1名参加)	A
	③ ・学内外で実施される教職員表彰等に積極的に推薦する。	③ ・1月22日(水)に優秀教員2名(一般部門:都市環境デザイン工学科教授、若手部門:一般教育科講師)の表彰を行った。なお、この両名については高専機構教員顕彰の候補者として推薦する。	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	④ ・高専間職員交流制度を活用し、他高専等への職員派遣に努める。また、鹿児島県内4機関における人事交流を推進する。	④ ・高専機構本部へ職員1名を派遣しており、鹿児島県内4機関の人事交流者は1月現在、事務職員の約42%の13名となっている。今後も鹿児島県内4機関の人事交流を推進する。	A
4-(4) 法令遵守やセキュリティに係る 研修実施等	① ・全教職員に高専機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアルを配付し、年1回コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	① ・機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアルに基づき、全教職員がコンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、教職員が遵守すべき事項を確認することでコンプライアンスの向上を図った。	A
	②-1 ・全教職員を対象とした科研費説明会等において、「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」「公的研究費の管理・監査のガイドライン」等を踏まえた説明会を実施し、研究費の不正使用防止に取り組む。 ②-2 ・公的研究費等内部監査及び高専間相互会計内部監査を効果的に実施する。また他高専を含む指摘事項について速やかにフォローアップを行う。	②-1 ・全教職員が高専機構から配信のあった、「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」「公的研究費の管理・監査のガイドライン」等に関する動画を11月5日(火)迄に視聴し、その理解度チェックの確認表と誓約書を提出することで、研究費の不正使用防止に取り組んだ。 ②-2 ・公的研究費等内部監査 実施日:令和元年9月2日(月)～令和元年9月13日(金) 確認事項:4件(旅費、謝金等の事務処理)が報告されたが、各事項については担当係で改善を図った。 ・高専間相互会計内部監査 都城高専による被監査:令和元年11月26日(火)～27日(水) 不適切・要改善事項:指摘なし 確認事項:1件(契約等の事務処理)が報告されたが、関係部署で改善を図った。 <定義> 不適切事項: 現金の亡失、預け金、品名替えやブール金など、極めて重大な不適切な会計処理と認められるもの 要改善事項: 処理が未実施だったもの又は処理が規則・本部通知に違反しており、改善を要求したもので、改善計画等報告を求めるもの。 確認事項: 良好な会計処理がなされているもの。要改善にはいたらないが会計処理について助言・アドバイスをを行ったもの。	A

評価項目	計 画	令和元年度実績(実績は1月末時点) ※適宜、平成30年度までの実績を用いる	自己評価
	③ ・高専機構が実施する監事監査及び内部監査受審にあたり、遅滞なく準備を進め効果的な監査とする。また、評価内容に応じて必要なフォローアップを実施する。	③ ・高専機構監事監査 高専機構監事による監査: 令和元年12月23日(月)～24日(火) 現在高専機構からの評価結果待ちであり、必要に応じて全学又は関係部署で対応する。 ・高専機構内部監査 高専機構担当職員による監査: 令和元年12月23日(月)～24日(火) 要改善事項: 1件(いじめ防止対策の研修関係) 好事例・モデルケース: 2件 確認事項: 13件 が報告された。今後関係部署で改善を図っていく。 <定義> 要改善事項: 監査対象校に処理について改めるよう要求したもので、改善計画等報告を求めるもの。 好事例・モデルケース: 他高専、高専機構において参考になるもの。 確認事項: 良好な処理がなされているもの。要改善には至らないが処理について助言・アドバイスを行ったもの。 【課題・改善策】 ・学生及び教職員を対象とした、いじめ防止対策に関する講習会・研修会を実施することになっていたが、学生については今年度中の実施ができない状況である。今後、学内外の関係部署(県総合教育センター等)と連携し次年度の早い時期に実施できるように調整する。	B
	④ ・関係団体主催で開催される「研究における不正行為」や「研究費の不正使用」等についての説明会に積極的に参加し、校内での情報共有を図る。	④ ・文部科学省と日本学術振興会が開催する科研費説明会に事務職員1名が参加した。文部科学省ホームページ掲載の説明会資料を教職員へメールで案内することで、校内での情報共有を図った。 ・科研費説明会 (高専機構が開催し、日本学術振興職員が講師の説明会) 令和元年9月17日 テレビ会議システムにて開催(教職員8名参加)後日、録画動画を全教員向けにメールにて配信。	A'
	⑤ ・高専機構CSIRTと連携し、外部のインシデント内容及びインシデント対応等について情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」を継続して行うなど、全教職員の情報セキュリティに関する意識を高める取組を行う。 CSIRT: (Computer Security Incident Response Team、シーサート)	⑤ ・インシデント発生時には機構事務局及び高専機構CSIRTに直ちに報告し、連携して対応を行った。また、全教職員を対象とした情報セキュリティ教育(e-learning)及び標的型攻撃メール対応訓練を、11月下旬に全教職員が実施した。 ・全教職員に「情報セキュリティに関するチェックリスト」を配布し、要機密情報に関する管理・運用の理解を図った。併せて全員から誓約書の提出があった。	A

<自己評価の標語> S:目標以上に達成している A:達成している A':概ね達成している B:一部達成している C:達成していない

◆学校説明会(訪問)

		校数
○中学校へ出向いての高校説明会	県内	69 校
	県外	0 校
	小計	69 校
○中学校個別訪問	県内	40 校
	県外	1 校
	小計	41 校
○一日体験入学PR訪問	県内	27 校
	県外	0 校
	小計	27 校
合計		137 校

◆中学校教員向け進学説明会

会 場	日程	回数	中学生	保護者	教員	その他	計
・鹿児島市(宝山ホール)	10/5(土)	2	-	-	20	-	20
・鹿屋市(リナシティかのや)	10/12(土)	1	-	-	3	-	3
・本校会場①	10/6(日)	1	-	-	6	-	6
・本校会場②	10/13(日)	1	-	-	4	-	4
合計		5	0	0	33	0	33

◆塾・予備校関係者向学校説明会

会 場	日程	回数	中学生	保護者	教員	その他	計
・鹿児島市(宝山ホール)	10/5(土)	2	-	-	-	3	3
・鹿屋市(リナシティかのや)	10/12(土)	1	-	-	-	0	0
・本校会場①	10/6(日)	1	-	-	-	0	0
・本校会場②	10/13(日)	1	-	-	-	2	2
合計		5	0	0	0	5	5

◆中学生及び保護者のための学校説明会

会 場	日程	回数	中学生	保護者等	教員	その他	計
・鹿児島市(宝山ホール)	10/5(土)	2	30	38	-	-	68
・鹿屋市(リナシティかのや)	10/12(土)	1	5	9	-	-	14
・本校会場①	10/6(日)	1	29	40	-	-	69
・本校会場②	10/13(日)	1	48	52	-	-	100
合計		5	112	139	0	0	251

◆一日体験入学

会 場	日程	回数	中学生	保護者	教員	その他	計
本校会場	8/4(日)	1	405	340			745

◆その他(出張オープンキャンパス)

会 場	日程	回数	中学生	保護者	教員	その他	計
イオンモール始良店	10/20(日)	1	-	-	-	50	50

2019年度 鹿児島高専における公開講座・出前講座の実施状況調査報告書

No.	公開講座名	実施日	時間数	対象者	募集定員	受講者数	備考
1	ロボット制御を体験しよう① -レゴブロックで作ったロボットのプログラミング-	7/28(日)9:00～12:00	3時間	小学5年生～中学生	6	16	小学生 10名 中学生 6名 保護者 13名
2	ミクロの世界をのぞこう!! ～さわれる?！見えない世界～	8/3(土)9:30～12:30	3時間	小学4年生～中学生	6	6	小学生 4名 中学生 2名 保護者 3名
3	離島小中学生への電気エネルギー・技術 史教室	8/9(金)12:30～15:30	3時間	小学4年生～中学生	8	7	小学生 6名 中学生 1名 保護者 3名
4	トリプルレンジャーを組み立てて 電気制御を知ろう	8/17(土)9:00～12:30	3.5時間	小学4年生～中学生	8	8	小学生 5名 中学生 3名 保護者 7名
5	中学生のための物理実験1	8/19(月)13:00～16:00	3時間	中学生	10	8	中学生 8名
6	ロボット制御を体験しよう② -レゴブロックで作ったロボットのプログラミング-	8/20(火)9:00～12:00 13:30～16:00	3時間 3時間	小学5年生～中学生	6	10	小学生 8名 中学生 2名 保護者 7名
7	プログラミングに挑戦!	8/22(木)9:30～12:00 13:30～16:00	2.5時間 2.5時間	中学生	5	9	中学生 9名 保護者 2名
8	電気電子ビルダーズ ～夏のイルミネーションを作っちゃお～	8/23(金)13:30～15:30	2時間	小学4年生～中学生	10	8	小学生 8名 保護者 7名
9	電気電子ビルダーズ ～ラジコンカーを作っちゃお!～	8/27(火)13:30～15:30	2時間	小学4年生～中学生	10	9	小学生 7名 中学生 2名 保護者 6名
10	電気電子ビルダーズ ～金属探知機を作っちゃお!～	8/28(水)13:30～15:30	2時間	小学4年生～中学生	10	8	小学生 7名 中学生 1名 保護者 3名
11	ミクロの世界をのぞこう!! ～さわれる?！見えない世界～	11/3(日)9:30～12:30	3時間	小学4年生～中学生	6	3	小学生 2名 中学生 1名 保護者 4名
12	ミクロの世界をのぞこう!! ～さわれる?！見えない世界～	12/8(日)9:30～12:30	3時間	小学4年生～中学生	6	4	小学生 3名 中学生 1名 保護者 5名
合 計 講座		—	—	—	—	96	

No.	出前講座名	実施日	時間数	対象者	募集定員	受講者数	備考
1	始良市サイエンスリーダー養成講座特別 講座 ロボット講座	1/13(月)9:00～12:00	3時間	小学生～中学生	—	25	小中学生 25名 始良市教育委員会主催
合 計 講座		—	—	—	—	25	

鹿児島高専公開講座2019

7/28(日)
&
8/20(火)

ロボット制御を体験しよう ～レゴブロックで作ったロボットのプログラミング～

レゴブロックで作ったロボットを制御するためのプログラムづくりを体験します。自分の思い通りに動かすプログラムをパソコンでつくってみましょう。

7月28日(日)

- ★定員: 6名
- ★時間: 9:00～12:00
- ★対象: 小学5年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 7/19(金)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

8月20日(火)

- ★定員: 6名
- ★時間: 9:00～12:00
- ★対象: 小学5年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 7/26(金)
- ★参加料: 無料

8/3
(土)

ミクロの世界をのぞこう!! ～さわれる? 見えない世界～

- ★定員: 6名
- ★時間: 9:30～12:30
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 7/26(金)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

普段触れることのない電子顕微鏡でミクロの世界を覗いたり、観察した対象物を3Dプリンタで立体的な作成を通して、科学技術分野に対する興味やものの作りの楽しさを体験しましょう。

夏休み
期間中の
平日で
調整中

薩島小中学生への電気エネルギー・ 技術史教室

- ★定員: 8名
- ★時間: 10:00～14:00
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 種子島中学校
- ★締切: 7/19(金)
- ★参加料: 無料

電気エネルギーが伝わるモデルを製作して「ものづくり」の楽しさを実感します。また、大河ドラマでも描かれた郷土の先輩たちのすばらしさを学びます。

8/17
(土)

トリプルレンジャーを組み立てて 電子制御を知ろう

- ★定員: 8名
- ★時間: 9:00～12:00
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 7/17(水)
- ★材料費: 4,104円

3つのタイプ(ローパーロボット、グリッパロボット、フォークリフトロボット)に変形! リモコン操作で悪路を進む! 「トリプルレンジャー」を製作して、もの作りの楽しさや電子制御に触れよう。

* 受講決定後に材料を事前購入しますので、キャンセル及び欠席の場合でも、材料費・送料は発生します。

霧島市教育委員会後援

8/19
(月)

中学生のための物理実験1

- ★定員: 10名
- ★時間: 13:00～16:00
- ★対象: 中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 8/9(金)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

物理の実験を体験しよう。はすみ玉のはね返り速度・光の屈折・振り子の周期・ワイングラスの鳴き・マジックパイプの音の変化などを測定します。様々な物理の法則を理解しよう。

8/22
(木)

プログラミングに挑戦!

- ★定員: 5名
- ★時間: 9:30～12:00
- ★対象: 中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 8/5(月)
- ★参加料: 無料

プログラミングに挑戦! 初めの方でも大丈夫。ブロックを並べるビジュアルプログラミングでロボットを動かそう。動かし方はあなた次第!

霧島市教育委員会後援

8/27
(火)

電気電子ビルダース ～ラジコンカーを作っちゃお!～

- ★定員: 10名
- ★時間: 13:30～15:30
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 8/7(水)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

スマホで操作する「ラジコンカー」を作っちゃお! どうやってスマホでモーターをOn・Offするのか? 電気・電子・情報の不思議を体験だっ!

8/23
(金)

電気電子ビルダース ～夏のイルミネーションを作っちゃお!～

- ★定員: 10名
- ★時間: 13:30～15:30
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 8/7(水)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

ICを使って、暗くなるとLEDが光る! 曲が流れる! 「イルミネーション」を作っちゃお! どうやって明るさを感じるのか? 電気電子の不思議を体験だっ!

8/28
(水)

電気電子ビルダース ～金属探知機を作っちゃお!～

- ★定員: 10名
- ★時間: 13:30～15:30
- ★対象: 小学4年生～中学生
- ★会場: 鹿児島高専
- ★締切: 8/7(水)
- ★参加料: 無料

霧島市教育委員会後援

マイコンを使って金属を感じる「金属探知機」を作っちゃお! どうやって金属に反応するのか? どんな金属が反応しやすいか? 電気電子の不思議を体験だっ!

お申し込みの際はWeb申し込みをご利用ください!

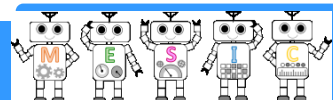
本校ホームページからWEB上でお申込みください。
FAX・メールでも受け付けをいたしますが、電話受付は行いません。
申込者多数の場合は、抽選になります。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校 学生課 教務係

〒899-5193 鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

TEL: 0995-42-9014 FAX: 0995-43-2584 e-mail: kouhou@kagoshima-ct.ac.jp



～先行案内～

鹿児島高専公開講座2019

6/16 (日) ヨーロッパ最先端のデザイン&VR技術を体験しよう！

- ★定員：10名
- ★時間：9:00～12:00
- ★対象：中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

北欧から招いた先生と英語でコミュニケーションをとりながら、VRの世界に触れましょう。初心者でも大丈夫！高専の先輩が丁寧にサポートします。

8月下旬 中学生のための物理実験1

- ★定員：10名
- ★時間：13:00～16:00
- ★対象：中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

物理の実験を体験しよう。はずみ玉のはね返り速度・光の屈折・振り子の周期・ワイングラスの鳴き・マジックパイプの音の変化などを測定します。様々な物理の法則を理解しよう。

8月下旬 電気電子ビルダース ～夏のイルミネーションを作っちゃお！～

- ★定員：10名
- ★時間：13:30～15:30
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

ICを使って、暗くなるとLEDが光る！曲が流れる！「イルミネーション」を作っちゃお！どうやって明るさを感じるのか？電気電子の不思議を体験だっ！

8月下旬 電気電子ビルダース ～ラジコンカーを作っちゃお！～

- ★定員：10名
- ★時間：13:30～15:30
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

スマホで操作する「ラジコンカー」を作っちゃお！どうやってスマホでモーターをOn・Offするのか？電気・電子・情報の不思議を体験だっ！

8月下旬 電気電子ビルダース ～金属探知機を作っちゃお！～

- ★定員：10名
- ★時間：13:30～15:30
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

マイコンを使って金属を感じる「金属探知機」を作っちゃお！どうやって金属に反応するのか？どんな金属が反応しやすいか？電気電子の不思議を体験だっ！

夏休み予定 離島小中学生への電気エネルギー・技術史教室

- ★定員：8名
- ★時間：10:00～14:00
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：種子島中学校

電気エネルギーが伝わるモデルを製作して「ものづくり」の楽しさを実感します。また、大河ドラマでも描かれた郷土の先輩たちのすばらしさを学びます。

7月/8月 ロボット制御を体験しよう ～レゴブロックで作ったロボットのプログラミング～

レゴブロックで作ったロボットを制御するためのプログラムづくりを体験します。自分の思い通りに動かすプログラムをパソコンでつくってみましょう。

7月下旬

- ★定員：6名
- ★時間：9:00～12:00
- ★対象：小学5年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

8月下旬

- ★定員：6名
- ★時間：9:00～12:00
- ★対象：小学5年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

7月または8月 トリプルレンジャーを組み立てて電子制御を知ろう

- ★定員：8名
- ★時間：9:00～12:00
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

3つのタイプ（ローバーロボット、グリッパーロボット、フォークリフトロボット）に変形！リモコン操作で悪路を進む！「トリプルレンジャー」を製作して、もの作りの楽しさや電子制御に触れよう。

7月下旬 ミクロの世界をのぞこう！！ ～さわれる？！見えない世界～

- ★定員：6名
- ★時間：9:30～12:30
- ★対象：小学4年生～中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

普段触れることのない電子顕微鏡でミクロの世界を覗いたり、観察した対象物を3Dプリンタで立体的な作成を通して、科学技術分野に対する興味やもの作りの楽しさを体験しましょう。

8月予定 プログラミングに挑戦！

- ★定員：5名
- ★時間：9:30～12:00
- ★対象：中学生
- ★会場：鹿児島高専

霧島市教育委員会後援予定

プログラミングに挑戦！初めての方でも大丈夫。ブロックを並べるビジュアルプログラミングでロボットを動かそう。動かし方はあなた次第！

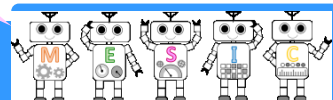
夏休み期間を中心に上記のとおり公開講座を予定しております。詳細については、後日、本校HPで案内いたします。なお、講座によっては、内容が変わるものや参加料が必要なものがございます。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
鹿児島工業高等専門学校 学生課 教務係

〒899-5193 鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1

TEL: 0995-42-9014 FAX: 0995-43-2584 e-mail: kouhou@kagoshima-ct.ac.jp



インターンシップ参加実績一覧

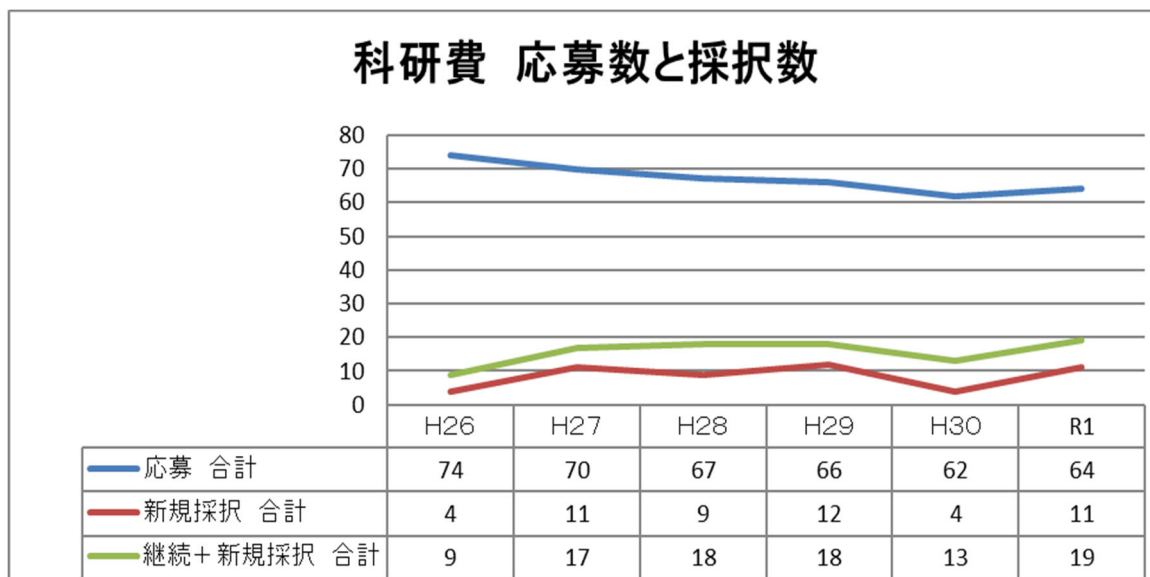
学科	2019年度					平成30年度					平成29年度					平成28年度				
	全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合	全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合	全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合	全体人数	応募者	選外者	参加人数	割合
機械工学科	39	39	10	29	74%	43	47	11	36	84%	36	35	6	29	81%	40	43	10	33	83%
電気電子工学科	36	33	7	26	72%	37	38	10	28	76%	32	19	4	15	47%	42	33	9	24	57%
電子制御工学科	43	57	11	46	107%	41	54	14	40	98%	45	50	15	35	78%	42	38	3	35	83%
情報工学科	37	39	7	32	86%	41	42	9	33	80%	36	33	6	27	75%	35	22	3	19	54%
都市環境デザイン工学科	33	33	1	32	97%	43	37	0	37	86%	41	39	4	35	85%	41	38	3	35	85%
本科その他学年		1	0	1			3	0	3			4	0	4			3	0	3	
本科計	188	202	36	166	88%	205	221	44	177	86%	190	180	35	145	76%	200	177	28	149	75%
専攻科 電子システム工学専攻	10	10	3	7	70%	9	4	0	4	44%	13	4	0	4	31%	12	5	0	5	42%
専攻科 電気情報システム工学専攻	12	11	4	7	58%	12	6	1	5	42%	11	3	0	3	27%	5	2	0	2	40%
専攻科 建設工学専攻	5	0	0	0	0%	6	5	0	5	83%	7	4	0	4	57%	3		0	0	0%
専攻科 その他学年		1	0	1								0		0				0	0	
専攻科計	27	22	7	15	56%	27	15	1	14	52%	31	11	0	11	35%	20	7	0	7	35%
合計	215	224	43	181	84%	232	236	45	191	82%	221	191	35	156	71%	220	184	28	156	71%

※1人で2社参加している場合は、2人としてカウント

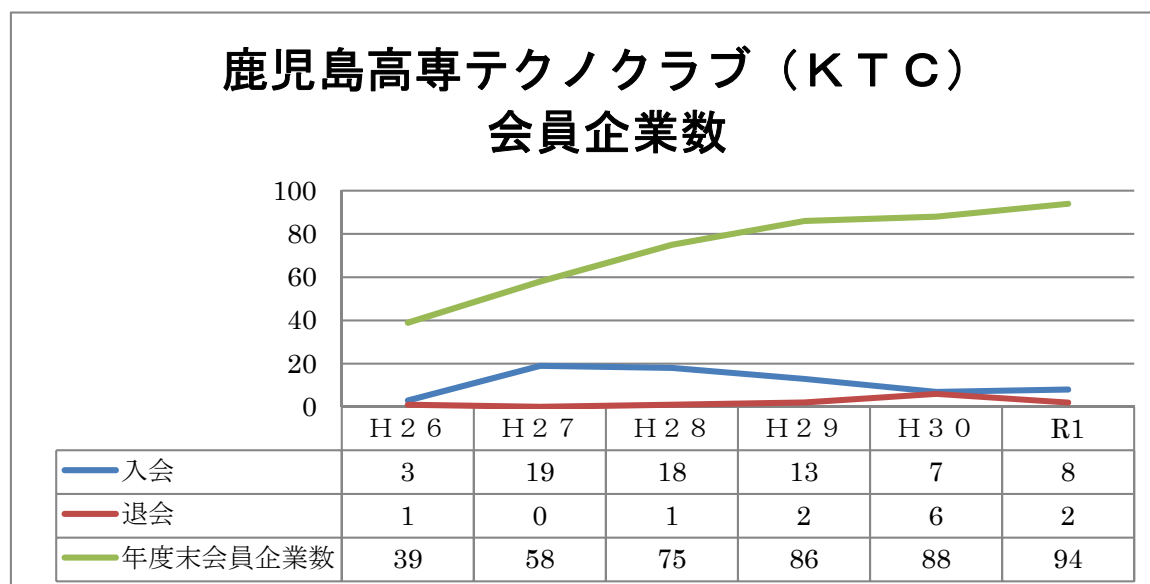
資料 ⑤

2 社会連携に関する事項

(2) 科研費と外部資金 — ①



(4) 鹿児島高専テクノクラブ (KTC) — ①



令和元年度 合同企業説明会・研究会等

実施主体	日付	項 目	実績（参加者数など）	備 考
鹿児島工業高等専門学校	2019/5/25（土）	保護者向け合同企業セミナー	鹿児島高専テクノクラブ会員企業22社、保護者126人、学生16人参加	
鹿児島工業高等専門学校	2019/6/7（金）	第1回鹿児島高専テクノクラブ役員会・総会	第1回鹿児島高専テクノクラブ役員会・総会 特別講演講師：鹿児島工業高等専門学校 校長 氷室 昭三 参加者：67人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/6/19（水）	地域企業特別講義	(株)ソフト流通センター 情報工学科4年生 36人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/7/8（月）	地域企業特別講義	(株)ユピテル鹿児島 電子制御工学科4年生 41人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/7/9（火）	地域企業特別講義	鎌田建設(株) 都市環境デザイン工学科4年生 34人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/7/17（水）	地域企業特別講義	トヨタ車体研究所(株) 機械工学科4年生 39人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/8/5（水）	地域企業特別講義	飛鳥電気(株) 電気電子工学科4年生 36人 電子制御工学科4年生 43人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/9/6（金）	第2回鹿児島高専テクノクラブ役員会・技術研修会	第2回鹿児島高専テクノクラブ役員会・技術研修会 特別講演講師：アールズ社会保険労務士事務所 所長 鹿児島県社会保険労務士会理事 原田 雄一朗 氏 参加者：65人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/6（水）	地域企業見学	東フロコーポレーション(株) 機械工学科3年生 44人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/6（水）	地域企業見学	昭光エレクトロニクス(株) 電気電子工学科3年生 40人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/6（水）	地域企業見学	(株)ユピテル鹿児島 情報工学科3年生 36人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/12（火）	地域企業特別講義	ソフトマックス(株) 情報工学科1年生 42人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/15（金）	地域企業見学	ヤマグチ(株) 都市環境デザイン工学科3年生 44人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/11/20（水）	地方創生特別講義	日置市役所 電子制御工学科2年生 40人 情報工学科2年生 40人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/4（水）	地域企業特別講義	国分電機(株) 機械工学科1年生 42人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/4（水）	地域企業特別講義	(株)明興テクノス 電気電子工学科1年生 42人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/4（水）	地方創生特別講義	霧島市役所 機械工学科2年生 44人 電気電子工学科2年生 43人 都市環境デザイン工学科2年生 39人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/5（木）	地域企業見学	(株)九州タブチ 電子制御工学科3年生 43人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/11（水）	地域企業特別講義	大福コンサルタント(株) 都市環境デザイン工学科1年生 42人	
鹿児島工業高等専門学校	2019/12/20（金）	地域企業特別講義	(株)A・R・P鹿児島事業所 電子制御工学科1年生 36人	
鹿児島工業高等専門学校	2020/1/22（水）	KTC・霧島市合同企業研究会	主催：鹿児島高専、霧島市、KTC 県内企業58社、学生213人、教員・保護者等7人参加	
鹿児島工業高等専門学校	2020/3/13（金）	第3回鹿児島高専テクノクラブ役員会・技術研修会		

資料 ⑦

表1 海外学術協定校一覧 ※締結日は最新の日付

	相手機関	相手国	締結日	対象
1	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ	アメリカ合衆国	2018/8/20	鹿児島高専
2	トゥールーズIUT	フランス	2016/3/25	鹿児島高専
3	モンペリエIUT	フランス	2016/2/2	鹿児島高専
4	マレーシア工科大学 (UTM)	マレーシア	2016/9/26	鹿児島高専
5	キングモンクット工科大学ラカバン校 (KMITL)	タイ	2011/1/10	高専機構
6	ニースポリテクニク (NP)	シンガポール	2011/9/27	高専機構
7	ナンヤンポリテクニク (NYP)	シンガポール		
8	テマセクポリテクニク (TP)	シンガポール		
9	シンガポールポリテクニク (SP)	シンガポール		
10	リパブリックポリテクニク (RP)	シンガポール		
11	香港職業訓練協議会 (VTC)	香港	2012/1/9	高専機構
12	ペトロナス工科大学 (UTP)	マレーシア	2014/2/6	九州沖縄地区高専
13	ガジャマダ大学 (UGM)	インドネシア	2014/2/6	九州沖縄地区高専
14	ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	2014/2/6	九州沖縄地区高専
15	キングモンクット工科大学北バンコク校 (KMUTNB)	タイ	2014/2/7	九州沖縄地区高専
16	カセサート大学 (KU)	タイ	2014/2/10	九州沖縄地区高専
17	ハノイ大学 (HANU)	ベトナム	2015/6/15	九州沖縄地区高専
18	廈門理工学院 (XMUT)	中国	2014/6/28	九州沖縄地区高専
19	モンゴル科学技術大学 (MUST)	モンゴル	2014/8/2	九州沖縄地区高専
20	台北科学技術大学 (NTUT)	台湾	2015/3/3	九州沖縄地区高専
21	キングモンクット工科大学トンブリ校 (KMITL)	タイ	2016/3/1	九州沖縄地区高専
22	ダナン科学技術大学 (DUT)	ベトナム	2017/2/22	九州沖縄地区高専

表2 海外インターンシップ派遣及び受入実績

形態	相手先	相手国	人数	期間
(海外学術協定校) 受入1名、派遣1名				
受入	モンペリエIUT	フランス	1名	2019/4/8-2019/4/19
派遣	トゥールーズIUT	フランス	1名	2020/2/24-2020/3/20
(企業) 受入2名、派遣3名				
受入	株式会社パールテ (宮崎県)	フランス	1名	2019/4/21-2019/6/28 (鹿児島高専滞在後)
受入	株式会社アルバック九州 (鹿児島県)	フランス	1名	2019/4/17-2019/6/28
派遣	MK Watertech.Co.Ltd	タイ	1名	2019/8/20-2019/9/18
派遣	Jurong Engineering Limited	シンガポール	2名	2019/8/29-2019/9/13

表3 学生交流実績

プログラム内容	相手機関	人数	期間
(派遣) 22名			
デザインキャンプ	香港VTC/IVE	2名	2019/8/17-2019/8/25 (中止)
海外異文化研修	ストックホルムNTI・ウプサラ大学 (スウェーデン)	8名	2019/8/31-2019/9/11
海外語学研修	ハワイ大学・カウアイコミュニティ カレッジ (アメリカ合衆国)	10名	2019/9/1-2019/9/21
海外異文化研修	台北科技大学 (台湾)	7名	2020/3/9-2020/3/13 (中止)
(受入) 24名			
さくらサイエンスプラン	ペトロナス工科 (マレーシア)	10名	2019/12/14-2019/12/20
海外異文化研修事後学習	ストックホルムNTI (スウェーデン)	4名	2020/1/16-2019/1/22
さくらサイエンスプラン	マレーシア工科大学	10名	2020/1/21-2020/1/27

表4 教員の海外派遣及び受入

相手先	相手国	人数	目的	
(派遣) 4名				
SERC (South Eastern Regional College)	イギリス	4名	来年度以降の外国人教員雇用に係る 打ち合わせ	2020/3/18-2020/3/21(予定)
(受入) 8名				
トゥールーズIUT	フランス	2名	短期留学生のインターンシップ先視 察	2019/6
ストックホルムNTI	スウェーデン	1名	VRワークショップの実施	2019/6
ペトロナス工科	マレーシア	1名	さくらサイエンスプラン 引率	2019/12
ストックホルムNTI高校	スウェーデン	3名	海外異文化研修事後学習 引率	2020/1
マレーシア工科大学	マレーシア	1名	さくらサイエンスプラン 引率	2020/1

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目 1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保

通し番号	項目	事前コメント	回答
1	1-(1)	・入学者を確保する活動を広く行っているのも、とても良いと思う。可能な限り、改善しながら継続すると良いと思う。	・承知いたしました。
2	1-(1)-③	・女子を引き立てる自己評価「S」。高専全体を盛り上げるのに、とても有効で、良いと思う。	・今後も「ロボギヤルズ鹿児島」の活動を中心に、継続して行っていききたいと考えています。
3	1-(1)-②	・発信する手段が、雑誌・新聞・ラジオ・テレビなどの「オールド・メディア」なので、中学生に直接届きにくい。 ・(提案) 内容は、オールド・メディア向けと同じで良いので、「スマホ」でアクセスできることをメインに情報発信したら良いと思う。「スマホ」向けとして、何が良いかは、高専の新入生にヒアリングすると良いか？ ・(提案) 入学希望者(中1から中3)等とLINE等でつながって、情報提供する。	・ご提案いただいたとおり、中学生及び保護者が、「スマートフォン」を利用して高専が発信する情報を収集することができよう広報活動の在り方を検討していききたいと思います。
4	1-(1)-②	・中学生のスマホ所有率(7割)。スマホを持たない・持てない中学生(3割)にも、配慮する。 *「持てない人がいるからスマホ向けの情報発信をしない」のではなく、持てない人に配慮して、スマホ向けの情報発信も行うほうがいいのでは。 ・(提案) 新入生に対して、オールド・メディアで「見たことがあるもの」を調査する。	・ご指摘のとおり「スマートフォン」、「オールド・メディア」両方を活用した広報活動を検討していききたいと思います。また、例年実施している「新入生向けアンケート」へ情報を収集した「ツール」についても調査項目へ盛り込みたいと思います。
5	1-(1)-③	・「なりたいたいこと」を小学生の時に決める子供もいるようなので、小学生へ「高専」をアピールする機会が少いあって、いいのかもしれない。(公開講座・出前講座に小学生が多数出席はとても良い) (提案) 高専への進学を決めた「きっかけ」を学生に調査する。	・「新入生向けアンケート」では、本校へ進学を決めた時期については調査しておりますが、きっかけについては調査していないため、こちらについても、調査項目へ盛り込みたいと思います。
6	1-(1)	・いただいた資料より ①中学校説明会 69校・・・鹿児島県内主要5市(鹿児島、霧島、始良、鹿屋、薩摩川内)の中学校約86校の約8割・・・数値目標として、可能な限り、説明会学校数を増やす。 ②中学校教員向け十塾予備校向け 説明会・・・教員38名 教員だけでなく塾教師から「高専という選択肢があるよ」といった一言が、人生を変える。 ③小学生から中学生向けの「公開講座・出前講座」 (提案) 参加者に「高専ボールペン」などの参加記念品を渡すと、印象アップになるかも。	・鹿児島県内のすべての中学校へ、本校の学校説明ができるよう努力していききたいを思います。 ・ご指摘いただいたとおり、塾講師からの一言が進路選択へ影響を及ぼしている状況です。よって、引き続き、中学教員、塾講師へ本校のPRを強化していききたいと思います。 ・現在、参加者には、本校の「クリアファイル」、「うちわ」を配付しております。今後、予算とも相談しながら「ボールペン」についても検討していききたいと思います。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目 1 教育に関する事項 (2) 教育課程の編成等

通し 番号	項目	事前コメント	回答
7	1-(2)-③-1	国内インターンシップの参加率が88%、専攻科では44%に留まったと記載されているが、資料④によれば専攻科は、56%となっている。どちらが正しいのか。2019年度は建設工学専攻が、応募者0である。前年度は83%であることから、なぜ応募者はなかったのでしょうか。	・専攻科の国内インターンシップ参加率は44%が正しい数値です。56%は海外インターンシップも含んだ数値となります。 ・学生に対する周知、指導等は例年通り実施しましたが、年度により学生の意識や積極性が異なっていることが理由として推察されます。
8	1-(2)-③-1	奨学金に対する感想は、やはりリスクを伴う借金だと思う。 この意味は、返済期間を通じて(10数年間?)、毎月の収入が十分にないと(※正社員でない)、生活できなくなること。これを十分に了解した上で、借りていただくことが必要だと思う。 ・機構ホームページを見て、制度の説明が主で、「返済時のリスク」が伝わってこない。 ・リスクについての説明は、奨学金を借りる前の説明会で行われていると思いますが、よりリアルに。	・本校でも常々、奨学金の返済額が多大になる状況を心配しております。そのため、奨学金における申請のための説明会において、学生・保護者に対し、借用後は当然返済の義務が生じることや返済が滞った場合にどのような状況に陥るかということについて具体的な説明を行っており、真に必要としている場合にのみ適切な金額で申請を行うよう併せて指導しているところです。

評価項目 1 教育に関する事項 (3) 多様かつ優れた教員の確保

通し 番号	項目	事前コメント	回答
9	1-(3)-①	教員公募について、採用に至らなかった三学科の応募者数はそれぞれ何人ですか。 採用に至らなかった主な理由は何か。	・機械工学科：応募者1名 ・電子制御工学科：応募者無 ・情報工学科：応募者1名 ・採用に至らなかった主な理由として、公募要項に合致しない専門分野での応募であった。
10	1-(3)-②	クロスアポイントメントに対する企業側のメリットとそのメリットに対する高専としての取組みをお聞かせいただきたい。	・クロスアポイントメント制度は、高専の教育力強化、地元企業、大学等との連携による高専の教育基盤の充実、高専教員の研究力の向上、高専としての社会貢献を図ることを目的としています。企業側にとっては、高専の持つ専門性、及び地域企業との連携による企業力の向上というメリットがあるのではと考えております。平成31年に機構理事長から、全国の高専に対してクロスアポイントメント制度の実施要項が通知されました。このことから、高専と企業の連携が地域を越えることに繋がるのではと思われれます。
11	1-(3)	高専は、教育面にも重みを大きく置かれていると思いますが、採用時の教育と研究の見極めをどのように進めているのでしょうか。	・教員採用にあたっては、履歴書や応募者の教育、研究、管理運営、社会活動等について記載された業績調書による1次選考を実施し、2次選考では面接審査及び、模擬授業を実施する他、研究計画や外部資金の導入計画等についても質疑応答を行い、高専の教員としてふさわしいか、教育、研究活動について見極めを進めています。
12	1-(3)	採用時に学位を取得することを課していることは判りましたが、現在、所属する教員の学位取得率と学内の研究活性化の取組み、未所得者の学位取得の奨励はどのように進めていますか。	・学位取得率84.6%(55名/65名、校長除く)となっており、学内でも学位未所得者への大学や地域との連携による研究活性化を進めています。
13	1-(3)-③-1	国内インターンシップの参加率が比較的高いことに驚きました。参加者の心構え、成果報告等、参加前後の鹿児島高専の具体的な対応をお聞かせいただきたい。国内インターンシップに課せられている具体的な内容はあるのでしょうか。	・本科生については、参加直前の8月に外部講師による事前マナー講習会を実施し、ビジネスマナーの講習に加え、参加の目的や心構え、注意事項などについても指導を行っています。 また、参加後には日誌と報告書を提出させ、実習内容や得られた成果について振り返りの機会をもうけています。専攻科生については、さらに学内で報告会を行っています。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目 1 教育に関する事項 (4)教育の質の向上及び改善

通し 番号	項目	事前コメント	回答
14	1-(4)-①-2 質の保証を行うことは、難しい課題と思いますが、検証するツールCBTの具体的な説明をお願いします。今年度のCBTの結果では、質の保証はどのように評価されたのでしょうか。		・CBTとは、Computer Based Testingの略で、コンピュータ上で確認テスト(数学(1～3年生)、物理(2年生)、化学(2年生))を行うものです。 問題はレベル2(5段階レベル)に相当する難易度で構成されており、卒業生の質を保証するツールとして、平成30年度から全国の高専で実施しております。 また、CBT実施後は、試験結果に基づき各科目担当者が分析を行い、今後の教育改善に繋げるように使用しております。 今年度の試験結果については、先日(3月3日(火))開催された、高専機構の分析結果報告会(TV会議システム)で、全国の高専生の分析結果が報告されました。その後、各高専の試験結果の報告がありましたので、現在、その結果に基づき各科目担当者が分析を行っているところです。
15	1-(4)-⑤ 機関別認証評価において、現段階において改善を要する項目(案)の主なものは何か。		一部抜粋のうえ、記載いたします。 ・カリキュラム、ポリシーにおいて、「どのような教育内容、方法を実施するか」に関連して、各学科がディプロマ・ポリシーを達成するためにどのようなカリキュラム編成にするかが明示されていない。 ・教育、生活環境の利用状況や満足度等を学校として把握し、改善するための体制の整備が十分とは言えない。 ・学生や教職員のICT環境の満足度等を学校として把握し、改善するための体制の整備が十分とは言えない。 ・学校として、成績評価の妥当性の事後チェック、複数年度にわたり同じ試験問題が繰り返されないこと、このチェック、及び試験問題のレベルが適切であることのチェックに取り組んでいないなど、成績評価の客観性・厳格性を担保する措置が十分とはいえない。 等があげられました。
16	1-(4) 数理情報サイエンス教育の高専としての計画と学科間の連携はどのように考えていますか。		・現在のところ、具体的な実施計画はありませんが、全国の大学・高専等を参考に、実施可能な取り組み等について検討していきたいと思っています。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目 1 教育に関する事項 (5) 学生支援・生活支援等

通し 番号	項目	事前コメント	回答
17	1-(5)	①同窓会として同窓会館活用について学校として要望はありませんか。 ②同窓会として校長、教職員との話し合う場を作りたい。 ③学生への支援については、後援会と密な打合せを行いたい。ロボコンやエコラン等、対外的な学生の支援の強化。	・現在の同窓会館の利用は、一部の教職員、学生の利用となっております。今後、利便性の良い同窓会館の運営を期待しております。 ・ご要望がありましたら、校長、教職員との話し合いの場を設定させていただきます。 ・対外的な学生支援を強化していただけること大変ありがたいお申し出に感謝いたします。 後援会からの支援に関しては、年々支援内容の充実が図られているところですが、後援会とも相談し、提供できる資料等は提出させていただきます。
18	1-(5)-①	・①カウンセンシング等を受けた学生数などの実績や、成功事例、失敗事例をお聞かせ願います。	・カウンセラーやスクールソーシャルワーカーへの相談は今年度106件です。この中には同じ学生が複数回相談した件数や関係する教職員・保護者の相談も含まれ、学生の実人数としては13名です。 ・成功事例と言えるか分かりませんが、多くはカウンセンシングを受け続けることで、精神の安定を調整しており、学校生活を継続できている学生もいます。 失敗事例は特にありません。
19	1-(5)-①	・①「これまで教職員では対応が困難な問題」とは、具体的にどのような問題で、何件あったかをお聞かせ願います。	・具体例としては、スクールソーシャルワーカーのネットワークを活用して学生の通院する病院との連携体制を構築し、情報交換を行うことができませんでした。その他、上記でも記述したように、概ねカウンセラーに対しては当事者ではないという安心感から話をしてくれることが多いと思います。
20	1-(5)-①-4	①-4 いじめ防止対策 過去に教育委員会宛に、次の3点を要望した。 ①「いじめ防止対策推進法」を教職員に覚えてもらうこと。 ②いじめられていない児童は、その旨を「遠慮なく」申し出て、いじめている人が改まるまで待つのではなく、「1日も早くいじめの「苦痛」から解放」されるように、「学校が行動」すること。 ③クラスメイトは、いじめを見て見ぬふりをするのではなく、どういった手段でもいいので、いじめられている人を「助ける」ことができる環境や雰囲気を作ること。 ・高専は、「いじめ防止対策推進法」は適用されないが、同法は「先人の犠牲と努力」で作られたもので、内容は、とても良いと思う。 高専の学生も、「いじめられている」時は、遠慮なくその旨を高専の窓口に出して、法律に準じた対応を高専職員が行うならば、悲惨な犠牲は防げることと思う。	・本校では、いじめ防止対策推進法、いじめの防止等のための基本的な方針及び独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシーに則り、鹿児島工業高等専門学校いじめ防止基本方針を定めております。 また、教職員以外の相談窓口として、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、学生の多様な相談に応じられるよう組織しております。

評価項目 2 研究や社会連携に関する事項 (1) 情報発信

通し 番号	項目	事前コメント	回答
21	2-(1)	地域共同テクノセンターが中心的役割を担い、高専の様々な情報をホームページをはじめ、放送、新聞などのメディアや、地域の行政機関への働きかけなど、活発に活動している。今後もこの活動は必要であると考え。注意する事項は、続けることことで形骸化しないようにメリハリのある活動を考えていることが不可欠である。今後を期待します。(コメント)	・今後も継続して各種イベント情報等の配信を行い、鹿児島高専のPRを地域に向けて発信いたします。 また、3月18日(水)には南九州ケーブルテレビネットワークとの連携協力協定も締結されましたので、相互の協力体制をより一層強固なものとして、本校の情報発信に努めます。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目2 研究や社会連携に関する事項(2)科研費と外部資金

通し 番号	項目	事前コメント	回答
22	2- (2)	科研費などの公的資金の獲得には、各教員の積極的な提案や連携が必要である。純粋に研究に軸足を置くのであれば科研費に依存する比率が高くても良いが、地域貢献を目指すのであれば、地域企業との共同研究、受託研究等に積極的に取り組む必要がある。(コメント)	・科研費のみに依存する形ではなく、地域企業(特にKTO会員企業)との共同研究、受託研究等の件数を増やせるように活動して参ります。
23	2- (2)	県内で活動する卒業生、又は会社等の把握のリストがありますか？	・本校で取得している情報は卒業直後の就職先等であり、転職等があった場合の情報は把握できておりません。必要な際には、同窓会からの情報を共有していただけるよう協力体制を構築していく必要があると考えております。
24	2- (2)	科研の採択数が増加していることは喜ばしいことと思います。科研等の外部資金受け入れの推進に向けた、研究内容や書類作成に向けた相談窓口等の整備はされているのでしょうか。また、学内共同研究等の分野を超えたシステムは構築されているのでしょうか。	・科研費の手続きにつきましては企画係が担当し窓口となっております。分野を超えた学内の共同研究等のシステムにつきましては学校としてのシステムは構築されておりませんが、学科間で共同研究を行っているものもあります。なお、申請時の応募書類作成にあたっては「科研費プロジェクト・チーム」を設置し、適切な指導・助言等の支援をすることで、採択率の向上を図っているところです。

評価項目2 研究や社会連携に関する事項(3)地域連携

通し 番号	項目	事前コメント	回答
25	2- (3)	高専の卒業生を地域企業等に就職してもらう狙いでの地域企業や行政との連携は大事である。しかしながら、理工系の学生が大手メーカーや大都市のメーカーへの就職を希望することは自然な流れである。大事なのは、大手や大都市のメーカーに就職した卒業生が、鹿児島に戻ってくるときに、母校を頼って地元企業、または、関係のある企業への繋ぎや斡旋が行える高専の体制作りが必要不可欠である。現状ではこの体制が弱いように感じる。(コメント)	・ご指摘のとおり、現状のところリターン希望者の方の対応につきましては、教職員が個々人に対応することはあっても、学校として対応する体制が構築できておりません。今後、同窓会等との連携の在り方等について検討させていただきます。
26	2- (3)	KTOも含め学校での研究や技術教育での連携はとれないか。	・「COC+事業」においてKTO会員企業の方には特別講義の講師派遣や企業見学の受入を依頼し、連携を図りながら実施しているところです。なお、補助事業としての「COC+事業」は今年度末で終了することから、次年度以降はKTOの事業としてKTO会員企業に特別講義や企業見学を継続依頼することとしております。

評価項目2 研究や社会連携に関する事項(4)鹿児島高専テクノクラブ

通し 番号	項目	事前コメント	回答
27	2- (4)-①	高専と企業との連携を強める最も重要な組織である。現状では会員向けのセミナーがメインとなっている。会員企業とKTOが学生を交えながら共同研究等を実施できれば、情報発信や地域連携に繋がりが、学生の地元就職に繋がっていくと考ええる。KTOを活性化できたら、高専全体の活性化に繋がると考える。(コメント)	・KTO会員企業につきましては増加傾向にあり現在99社となっております。今後より一層の活性化に向けてイベントの開催を計画していきます。 また、KTO企業や地域企業の抱える課題等について、学生の卒業研究や特別研究のテーマとして企業・教員・学生が協働で取り組むことで、課題解決に繋げるとともに地域を志向する人材の育成を図って参ります。
28	2- (4)、(2)	特別な研究で予算がとれない研究費に対し、KTOや卒業生の支援をまとめられないか、具体的なテーマがあれば提示してはいいかですか？	・KTO技術研修会においては、各教員のシーズや研究内容等の紹介を行っております。また、教員からの希望がありましたら、紹介する機会を増やすことも検討して参ります。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

評価項目3 国際交流に関する事項(海外インターンシップの推進及びインターンシップ生の受入)

通し 番号	項目	事前コメント	回答
29	3-(1)	海外インターンシップのシステムはどのようなになっていますか。行く前後の教育体制を伺いたい。グローバル化の各学科の取組みを教えてください。	○海外インターンシップの事前教育は以下のとおり実施しております。 ・教員による事前指導、受け入れ機関(IPC)の職員による面談および事前指導、受け入れ機関(IPC、IUT)とのTV会議、e-mailを利用した事前指導を行っています。 ○事後教育は以下のとおり実施しております。 ・帰国後、得られた成果をまとめて報告書を作成し、報告会での発表をするための指導を行っている。また、報告書と報告(口頭発表)を複数教員が審査し指導を行っている。さらに、体験入学や広報誌(高専だより)を活用してインターンシップ報告を行い、得られた成果を学内外に広く発信するように指導しています。 ○各学科の取り組みとしては以下のとおりです。 ・鹿児島高専在校生のグローバル活動に関する動機づけとマインド育成を目的として、さくらサイエンスプランや学術協定(IUTやNTI)を活用し、海外学生を積極的に鹿児島高専に招へいしている。招へいた海外学生の年齢や専門分野を考慮して、受け入れる学科や学年、授業を選択し、授業や実習、ホームルーム等に参加させています。

評価項目4 管理運営に関する事項(3)研修、表彰、人事交流

通し 番号	項目	事前コメント	回答
30	4-(3)-④	鹿児島県内4機関における人事交流について、4機関の具体名は何でしょうか。また、文中「4機関の人事交流者は1月現在、事務職員の約42%の13名となっている。」は、どのような計算に基づくものでしょうか。	・鹿児島県内4機関:鹿児島高専、鹿児島大学、鹿屋体育大学、大隅青少年自然の家 ・事務職員31名のうち4機関における人事交流者13名(管理職除く)の割合41.93%となっています。

評価項目4 管理運営に関する事項

通し 番号	項目	事前コメント	回答
31	4-(4)-①	研究倫理教育・コンプライアンス教育システムの実態を教えてください。	・研究倫理教育に関してはAPRNeラーニングプログラムを用いて各教職員がweb上で受講を行っており、コンプライアス教育に関しては関係動画を各教職員が視聴し、その理解度チェックをアンケートにて行っています。
32	4-(4)-③	法令順守やセキュリティに係る研修実施等③のBとした具体的な内容は何でしょうか。	・令和元年度自己点検・評価報告書作成の時点では、内部監査における要改善事項である「いじめ防止対策」の研修等が未実施であったことからBとさせていたいただきました。 - なお、その後、令和2年2月12日(水)に、外部講師を招いて教職員に対する「いじめ防止に関する研修会」を開催したほか、本校のホームページにおいて、いじめ防止基本方針を公表し、また、同研修会の実施状況についても掲載しました。 - 学生に対しては、令和2年5月までに研修会を開催するよう調整中です。

令和元年度自己点検・評価報告書に対する事前質問等と回答

その他ご意見等

通し番号	項目	事前コメント	回答
33	—	自己点検・評価報告書を見て、全般について4点のコメントを記載します。 ① 自己点検・評価はPDCAサイクルを活用する必要があるかと思いますが、報告書ではP(計画)とD(実行)のみの記載で、C(評価)とA(改善)の記載がありません。そのため、この資料ではどのような評価を基に、客観的に自己評価がなされたかが不明です。 ② 自己点検・評価では、可能であれば数値目標が求められますが、ほとんどその記載がない。 ③ 自己点検・評価報告書によれば、4つの大項目で分類されており、学校経営がある程度網羅されているかと思いますが、これらの大項目は上位で規定されている「理念と目標」に基づく必要がありま。そうでないと鹿児島高専の進むべきゴールが見えてきません。そう考えると、鹿児島高専には「教育理念」と「教育理念を達成するための3つの目標」があります。その3つの目標からの枝分かれが、この4つの大項目と思われる。それであれば、それを明記する必要があるかと思います。 ④ 多くの施策や取り組みが行われており、教職員の勤務については多忙の状況が理解できます。働き方改革を進めるためにも、自己点検・評価報告書の項目を厳選し、PDCAサイクルによる簡便な報告書にする必要があるかと思われます。	・自己点検・評価の項目に関しては、機関別認証評価の際にも改善を要する事項にあがっておりますので、次年度以降に向けて、項目の変更も含め検討させていただきます。
34	—	本年の自己点検・評価を総括する意味でも課題の共通認識が必要だと思われすが、.. 今回の自己評価を受けて、現在、鹿児島高専として認識された最重点課題は何なのでしょうが？ また学校運営全般において現状は問題ないとしても今後、予測される課題を上げるとしたらどのような内容があげられるのでしょうか？	＜認証評価指摘事項（一部）＞ ・カリキュラムポリシーの内容について(ディプロマポリシーとの連接について) ・教育・生活環境及びICT環境の満足度等の把握について ＜監事監査指摘事項(監査講評において)＞ ・女性教員比率の向上について・学生の留年・退学の防止について ・年始の校長あいさつから＞ ◆本校の方針 ・国際的に通用する創造性豊かで人格が優れた技術者を養成すること。 ・開発型の教育・研究に重きをおき、社会的・経済的価値あるものを創出していくこと。 ・地域の産業、文化あるいは生活を支えていく地域に根差した高専とすること。
35	—	本評価委員会に出席して毎年のように感じるのですが、高専機構が定める評価項目に沿って自己点検された内容ですので、この結果についてご意見するつもりはありませんが、各計画に対する実施の有無で概ね評価するよりも実施した結果、どのような成果が生まれたのかを評価することが望ましいのではないかと思います。(質問ではなく意見です)	・今後、成果に関しての記述もできるように検討させていただきます。
36	—	○急激なグローバル化や少子高齢化に伴う社会のニーズや地球規模の環境変動、あるいは様々な管理社会・災害対策等に関する地域社会の要望、加えて、AI、ICT、IoT、ロボットやビッグデータ解析等のIT関連技術によるデジタル化、人やモノのネットワークによるサイバーとフィジカルの融合の潮流の中、文理を超えた数理的思考やデータ分析・活用能力を有する人材育成に対する鹿児島高専としての対応、取組みや展望について具体的に伺いたい。-----> 改組の対する方向性....ワーキングでまとまらなかった問題点	・本校では以下の学習・教育到達目標を掲げ教育研究活動を行っております。また、時代の流れに対応し関係するツールを使いこなせる技術者の育成を行っております。 1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者 2. グローバルに活躍する技術者 3. 創造力豊かな開発型技術者 4. 相手の立場に立つてものを考える技術者 ・その他、以下の取り組みを行っております。 →NECとのAI研究会やVRワークショップを開催 →企業との連携の中で最先端のIT関連の技術を学んでいく。(顔認証システムを授業の教材として活用していく) →グローバルエンジニア育成事業の採択を受け、外国人技術者によるICT関連の授業を行っていく。 ・改組については、本校は最先端技術を目指した学科再編を志向しておりますが、高専機構から地域ニーズに即した学科再編を求められたため、お互いの目指すところがかみ合わず、現在、検討中となっております。

第2部

令和元年度 外部評価報告書

令和元年度外部評価委員会委員名簿

外部評価委員

役職名	氏 名
第 1 号委員 鹿児島大学 大学院理工学研究科長	ほん ま とし お 本 間 俊 雄
第 2 号委員 霧島市教育委員会 教育委員	かわ の よしひろ 河 野 良 弘
第 3 号委員 鹿児島県工業技術センター所長	かり や かずあき 仮 屋 一 昭
第 4 号委員 (株)九州タプチ 代表取締役社長 鹿児島高専テクノクラブ会長	つるがの み お 鶴ヶ野 未 央
第 5 号委員 南九州ケーブルテレビネット(株) 代表取締役社長	やまぐち とし き 山 口 俊 樹
第 6 号委員 霧島市長	なかしげ しんいち 中 重 真 一
第 6 号委員 (株)相良製作所 代表取締役社長 鹿児島高専同窓会長	さが ら まさよし 相 良 正 典

鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則（一部抜粋）

（組織）

第 3 条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

- (1) 大学、高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体等研究機関の研究者等
- (4) 産業界の有識者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) その他校長が必要と認める者

令和元年度外部評価委員会委員出席者名簿

外部評価委員

役職名	氏 名
第1号委員 鹿児島大学 大学院理工学研究科長	ほん ま とし お 本 間 俊 雄
第2号委員 霧島市教育委員会 教育委員	かわ の よしひろ 河 野 良 弘
第3号委員 鹿児島県工業技術センター所長	かり や かずあき 仮 屋 一 昭
第4号委員 (株)九州タブチ 代表取締役社長 鹿児島高専テクノクラブ会長	つるがの み お 鶴ヶ野 未 央
第5号委員 南九州ケーブルテレビネット(株) 代表取締役社長	やまぐち とし き 山 口 俊 樹
第6号委員 霧島市長	なかしげ しんいち 中 重 真 一
第6号委員 (株)相良製作所 代表取締役社長 鹿児島高専同窓会長	さが ら まさよし 相 良 正 典

鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則（一部抜粋）

（組織）

第3条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

- (1) 大学、高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体等研究機関の研究者等
- (4) 産業界の有識者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) その他校長が必要と認める者

令和元年度外部評価委員会列席者名簿（鹿児島高専）

職 名	氏 名
校 長	氷 室 昭 三
副校長(教務主事)	松 田 信 彦
副校長(学生主事)	野 澤 宏 大
副校長(寮務主事)	樫 根 健 史
副校長(研究主事・専攻科長) (代理:研究主事補・電気情報システム工学専攻長)	山 内 正 仁 (逆瀬川 栄一)
副校長(国際交流担当)	徳 永 仁 夫
校長特別補佐 (グローバル・アクティブ・ラーニングセンター長)	入 江 智 和
校長特別補佐(地域共同テクノセンター長)	宮 田 千加良
校長特別補佐(学生何でも相談室長)	室 屋 光 宏
校長特別補佐(男女共同参画担当)	新 徳 健
事務部長	安 部 功一郎
総務課長	大 中 浩 己
学生課長	畠 俊 洋
技術室長	木 原 正 人

令和元年度鹿児島工業高等専門学校外部評価実施要領

1. 趣旨

鹿児島工業高等専門学校の自己点検・評価について、外部の有識者により本校の教育・研究活動等の評価、助言を受ける。

2. 評価方法

外部評価は、鹿児島工業高等専門学校の自己点検・評価報告書等に基づき、教育・研究活動等について行う。

委員会終了後、各委員に外部評価結果について、報告書の提出を依頼する。

3. 外部評価委員

- | | |
|------------|--------------------------------|
| (1) 本間 俊雄 | 鹿児島大学 大学院理工学研究科長 |
| (2) 河野 良弘 | 霧島市教育委員会 教育委員 |
| (3) 仮屋 一昭 | 鹿児島県工業技術センター所長 |
| (4) 鶴ヶ野 未央 | 鹿児島高専テクノクラブ会長 (株)九州タブチ 代表取締役社長 |
| (5) 山口 俊樹 | 南九州ケーブルテレビネット(株) 代表取締役社長 |
| (6) 中重 真一 | 霧島市長 |
| (7) 相良 正典 | 鹿児島高専同窓会長 (株)相良製作所 代表取締役社長 |

4. 外部評価日時

令和2年 3月24日(火) 14:00~16:45
鹿児島工業高等専門学校 中会議室(管理棟2階)

5. 事前配付資料

- (1) 令和元年度 自己点検・評価報告書
- (2) 令和元年度 学校要覧

6. 日程

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員及び本校出席者の紹介
- (4) 委員長選出
- (5) 学校概要・特色及び令和元年度 自己点検・評価報告書の説明
- (6) 質疑応答
- (7) 外部評価委員打合せ
- (8) 講評及び閉会

令和元年度外部評価委員会日程表

1. 日 時 令和元年 3月24日（火）
 14：00～16：45
2. 場 所 鹿児島工業高等専門学校 中会議室 管理棟2階
3. 会次第
 - （1）14:00～14:45
 - ① 開 会
 - ② 校長挨拶
 - ③ 委員及び本校出席者の紹介
 - ④ 委員長選出
 - ⑤ 学校概要・特色、令和元年度 自己点検・評価報告書の説明
：副校長（教務主事）（30分：パワーポイント等）
 - 【14:45～15:00 休憩】
 - （2）15:00～16:45
 - ⑦ 質疑応答（60分）
 - ⑧ 外部評価委員打合せ（35分）
 - ⑨ 講評及び閉会（10分）

鹿児島工業高等専門学校外部評価委員会規則

(設置)

第1条 鹿児島工業高等専門学校（以下「本校」という。）に外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、本校が行った自己点検・評価結果等について検証を行い、本校の教育・研究等の改善に資することを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、人格識見が高く、かつ、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の委員をもって組織する。

- (1) 大学、高等専門学校等の高等教育機関の教員及び経験者等
- (2) 本校の所在する地域の教育関係者
- (3) 地方自治体等研究機関の研究者等
- (4) 産業界の有識者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) その他校長が必要と認める者

(委員の委嘱)

第4条 委員の委嘱は、外部評価委員会の開催に合わせて、必要な期間行うものとする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は委員会を召集し、その議長となる。

(報告書と公開)

第6条 外部評価を行ったときは、報告書を作成し、公開するものとする。

(運営)

第7条 委員会の運営については自己点検・評価委員会が行う。

附 則

- 1 この規則は、平成16年5月21日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に第3条に規定する委員となる者の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。
- 3 鹿児島工業高等専門学校と有識者との懇談会要項は、廃止する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

7. 外部評価委員会議事録 (一部要約)

～開会 校長挨拶～

【氷室校長】

本日はお忙しい中、本校の外部評価委員会にご出席を賜わりまして、誠にありがとうございます。

今年に入り、世界中がコロナウイルスの脅威にさらされており、本校は流行前にどうか授業も定期試験も終わりましたが、残念ながら、卒業式だけは中止せざるを得ない状況になってしまいました。

さて、本日は新しい方もおられますので、少しだけ本校のご紹介をしたいと思います。本校は、昭和 38 年、機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級でスタートしています。昭和 42 年に土木工学科が増設されまして、さらに昭和 61 年に情報工学科が増設されております。そして、平成 3 年、2 つあった機械工学科のうち 1 つは、電子制御工学科に改組しております。この平成 3 年は、設置基準が大綱化されて、規制が緩和された年でありまして、特に高専におきましては、分野の拡大や専攻科の設置、5 年卒業する学生に準学士の称号も与えられるようになりました。この専攻科設置が認められて 9 年後の平成 12 年に機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、土木工学専攻の専攻科を設置しました。設置までに 9 年かかっていますが、これは博士号の学位取得者を増やすのに少し時間がかかっております。それから、平成 15 年に電気工学科を電気電子工学科に改称しております。そして、平成 16 年には、全国 55 の国立高専

を設置・運営する独立行政法人国立高等専門学校機構が開設され、それぞれの国立高専は一つの機構にまとまりました。平成 22 年、土木工学科が都市環境デザイン工学科に改称し、また、その 5 年後の平成 27 年に土木工学専攻を建設工学専攻に改称し、現在の形になりました。

さて、本校は、このように時代の要請に対応しながら、その設立趣旨にかなった実践的技術者を輩出してきております。ところが、最近の技術の革新、例えば、第 4 次産業革命というキーワードで象徴されますように、産業技術の融合化や複合化、グローバル化、ライフイノベーション、グリーンイノベーション等、これからの産業界には、多様で新しいタイプの技術者が必要となってきたり、社会から求められる技術者像も大きく変化してきております。

本校としても、専門に偏らず、多面的な物事に対応できるような、学際的な知識を有した実践的技術者の養成、これからのグローバル化に対応できて、地域に貢献できる技術者の養成に取り組む必要があろうかと思っているところでございます。

本日は、ただ今、申し上げましたように、この地域で望まれるような技術者像ということについてもご意見いただけたら、大変ありがたく思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

本校は外部評価委員会を年 1 回開催させていただいております。毎年毎年どれだけ本校が成長しているかは、少し見えにくいところもありますけれども、精一杯、全教職員一丸となって、さらなる発展のために努力をしているところです。厳しく評価いただいて、また来年度に向けて改善していき

たいと考えますので、本日はよろしく
お願いいたします。

～学校概要・特色の説明～

【松田副校長（教務主事）】

※次ページ以降のプレゼン資料を参照

～自己点検・評価報告書の説明～

【松田副校長（自己点検・評価担当）】

※次ページ以降のプレゼン資料を参照

グローバルに活躍する
技術者をめざして



鹿児島工業高等専門学校

鹿児島高専の学科構成

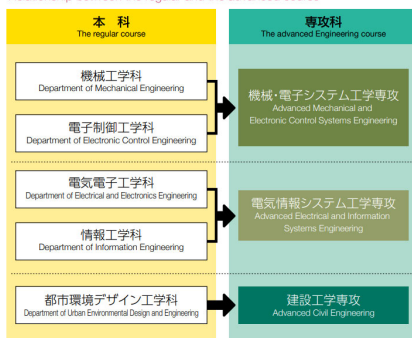
5つの専門的な学習ができる学科があります。

機械系 制御系 電気・情報系 都市・環境系



専攻科について

本科と専攻科の関係
Relationship between the regular and the advanced course



3

学習・教育到達目標

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者

- 1-a 現代社会を生かすための基礎知識を身に付け、社会の様々な事柄に関心を持つことができる。
- 1-b 様々な課題に取り組み、技術と社会との関連に関心を持つことができる。

2. グローバルに活躍する技術者

- 2-a 日本語の文章の内容を正確に読み取り、自分の考えを的確に表現することができる。
- 2-b 英語の基本的な内容を正確に理解し、自分の意思を英語で伝えることができる。

3. 創造力豊かな開発型技術者

- 3-a 専門知識を修得する上で必要とされる数学、物理、化学など自然科学の知識を修得し、それらを系統的に学習することができる。
- 3-b コンピュータやその周辺機器を利用して文書作成ができ、ネットワークを通して、有用な情報を取得することができる。
- 3-c 専門分野の学習や工学実験等を通して、専門分野の基礎的な知識を修得することができる。
- 3-d ものづくりと自主的継続的な学習を通して、創造性を養い専門分野の知識を応用することができる。

4. 相手の立場に立ってものを考える技術者

- 4-a 技術者の社会的な責任を理解することができる。
- 4-b 様々な文化、歴史などを通して多様な価値観を学ぶことで、相手の立場に立って物事を考えることができる。

4

高専生の出口について

本科卒業後の進路 (H30年度)

卒業生数 183名

就職者数 103名
(56.2%)

求人倍率: 26.6倍

進学者数 78名 (42.6%)

最近の県内の主な就職先

京セラ国分工場・川内工場 鎌田建設
ソニーセミコンダクタ 植村組
トヨタ車体研究所 コーアガス日本
アルバック九州 NHK鹿児島放送局
ユビテル鹿児島 鹿児島テレビ放送
藤田ワークス 鹿児島県庁
JAXA種子島宇宙センター 霧島市役所

最近の県外の主な就職先

本田技研工業 九州電力・関西電力
ダイハツ工業 東京ガス・大阪ガス
三菱自動車 出光興産
東芝フラントシステム NHK
JALエンジニアリング 富士通
全日本空輸 (ANA) キヤノン
三菱重工業 NTTグループ
富士重工業 KDDIエンジニアリング
JR西日本・JR東海 セイコーエプソン
東急建設 国家公務員

本科卒業後の進路 (H30年度)

卒業生数 183名

進学者数 78 名 (42.6%)

延合格者数は100名
推薦は48名(61%)

就職者数 103 名 (56.2%)
求人倍率:26.6倍

主な進学先(過去5年)	進学者数
鹿児島高専(専攻科)	134
九州工業大学	42
熊本大学	29
鹿児島大学	28
豊橋技術科学大学	31
長岡技術科学大学	9
大阪大学	6
九州大学	5
筑波大学	2
北海道大学	2
東京大学	1
東京工業大学	1

他、国立大 多数

※国立大学への編入学が多い!

※半数以上は推薦で入学

National Institute of Technology, Kagoshima College

8

専攻科の修了後の進路 (過去5年)

・修了者数 : 130名

就職:84名 大学院進学:46名

(主な進学先)

今春は3名が
進学予定

→ 東京大学大学院 2名
東京工業大学大学院 4名
九州大学大学院 11名
九州工業大学大学院 5名
長岡技術科学大学大学院 7名
筑波大学大学院 2名

8

(速報値)

本年度の本科卒業生 185名

・就職 106名(57%)

そのうち県内企業(公務員含む)25名

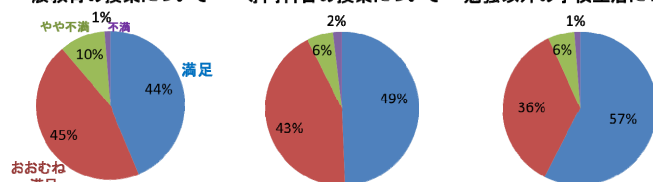
・専攻科・大学への進学 74名(40%)

・その他 5名

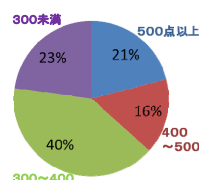
9

卒業生アンケート 2020. 3 (抜粋) ※回収率約90%

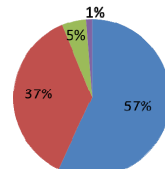
一般教育の授業について 専門科目の授業について 勉強以外の学校生活について



TOEICの点数



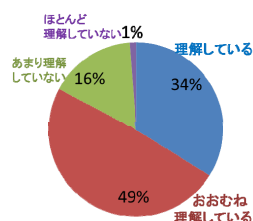
5年間全体としての満足度



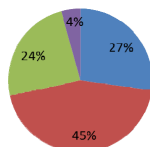
10

アンケート結果(つづき)

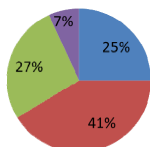
教育・到達目標を理解しているか



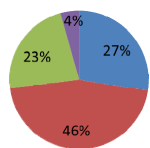
教育・到達目標Ⅰの達成度



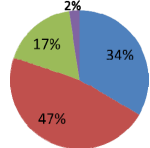
教育・到達目標Ⅱの達成度



教育・到達目標Ⅲの達成度



教育・到達目標Ⅳの達成度

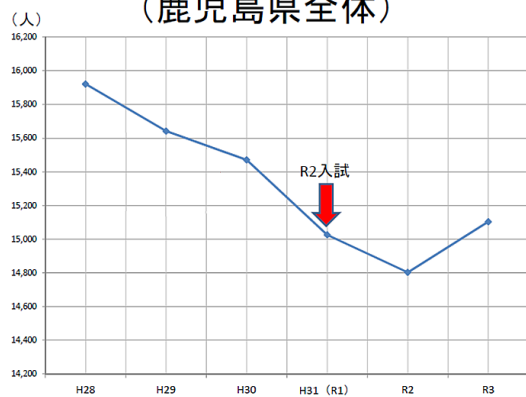


11

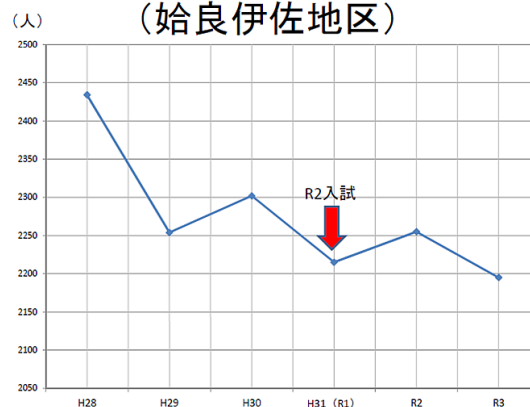
高専の入り口について

12

H28～R2の中学3年生の推移 (鹿児島県全体)

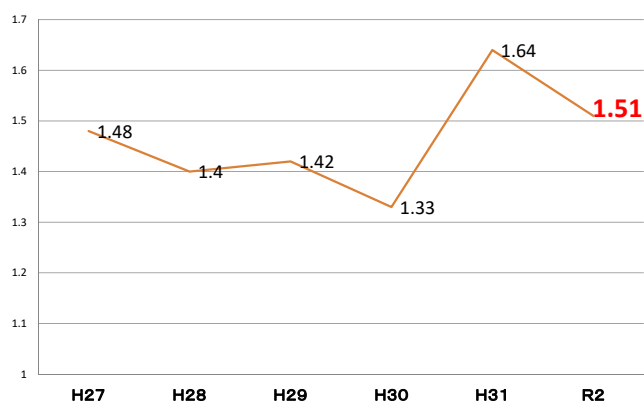


H28～R2の中学3年生の推移 (始良伊佐地区)



14

本校の入試倍率の推移



15

近隣の高校の入試倍率

	H30入試	H31入試	令和2入試
加治木高校	1.02	1.12	1.04
国分高校	0.93	1.11	0.90
国分中央高校	1.03	0.95	0.88
隼人工業高校	0.88	0.99	0.81
加治木工業高校	1.00	1.02	1.07
鹿児島高専	1.33	1.64	1.51

(参考)

鹿児島県内の国公立高校

鹿児島中央	1.53
鹿児島高専	1.51
鹿児島玉龍	1.47
鹿児島工業	1.35
鶴丸	1.34
甲南	1.27

16

志願者確保の取り組み

- 一日体験入学(8月)
- 出前講座、実験教室
- 中学校訪問、高校説明会への参加
- パンフレットの送付、配布

本年度からの新しい取り組み

- 入試広報プロジェクトチームの創設
- 始良イオンでの出張PR

17

学生生活について

18

高専の部活動について

ほぼ高校と同じ。高専にしかない部活もあります。

29の部、6の同好会があります。運動部・文化部ともとても盛んです。



National Institute of Technology, Kagoshima College

11

部活動および同好会

体育局 Bureau of Sports Clubs

硬式野球部 Baseball Club
バスケットボール部 Basketball Club
バレーボール部 Volleyball Club
剣道部 Kendo Club
空手道部 Karate-do Club
柔道部 Judo Club
卓球部 Table Tennis Club
陸上競技部 Track & Field Club
弓道部 Kyudo Club
サッカー部 Soccer Club
水泳部 Swimming Club
ソフトテニス部 Soft Tennis Club
テニス部 Tennis Club
バドミントン部 Badminton Club
合気道部 Aikido Club
ハンドボール部 Handball Club
極真空手部 Kyokushin Karate Club
ラグビーフットボール部 Rugby Football Club

文化局 Bureau of Cultural Clubs

写真部 Photograph Club
吹奏楽部 Brass Band Club
英語部 English Club
軽音楽部 Light Music Club
エコラン部 Ecological Driving Club
メカトロニクス研究部 Mechanical & Electronic Club
電子情報システム研究部 Electronic Information System Club
将棋・囲碁部 Japanese Chess and IGO Club
環境創造物理研究部 Environment Creation Physics Club
航空技術研究部 Aeronautical Technology Club
建築研究部 Architecture Club

同好会 Associations

フットサル同好会 Futsal Association
ストリートバスケ同好会 Street Basketball Association
美術・イラスト漫画同好会 Art, Illustration & Cartoon Association
数学同好会 Mathematics Association
天文気象同好会 Astronomical Meteorological Association
ピアノ同好会 Piano Association

20

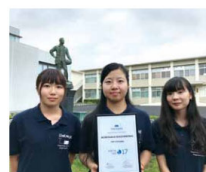
女子学生の状況

現在、137名の女子学生が在籍しています。
H31年度の新入生(39名)は30年度の1.6倍。
R2年度も36名が入学予定。



女子学生の活躍

Robogals Kagoshima: Inspiring younger generations



Robogals (ロボガールズ) は、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 分野を学ぶ女子を増やすことを目的に 2008 年オーストラリア・メルボルン大学の学生が設立した国際的ボランティア団体です。オーストラリアの Robogals Global を本部に、ヨーロッパ、アジア、北米、アジア太平洋地域など世界中に 30 を超える支部があります。日本では、東京工業大学で最初の支部が設立され、鹿児島工業高等専門学校では、約一年の準備期間を経て、2017 年 5 月に、メルボルン大学の Robogals Global 本部の承認を得て、日本で三番目の支部として Robogals Kagoshima が設立されました。現在、理系の魅力を伝えるために、女子小中学生を対象としたワークショップを実施しており、鹿児島県内の様々なイベントへの参加依頼を受けています。2017 年以降、毎年数名の学生が Robogals Kagoshima を代表して、オーストラリアで行われる Robogals の世界会議 (Robogals SINE) に出場し、オーストラリア各地の大学から集まった Robogals メンバーと交流しています。2017 年には、年間でも最も成長した支部として表彰されました。2018 年 1 月にはアメリカのハワイ大学、11 月には英国のウィンズ大学と South Eastern Regional College において、小中学生に STEM を効果的に教えるためのスキルを研修しました。国内では、女性技術者の育成に賛同する企業の支援を受け、最新テクノロジーの研修も行っています。Robogals はこれからも小中学生の身近な理系のロールモデルとして活動を行います。



高専の寮生活について

今年、学寮の改修工事が終わりました。

高専の学寮は、この半年の改修工事で女子寮生の部屋を増やしました。全学生の半数、500人以上が受け入れ可能です。4月からは男子およそ430名、女子およそ80名が入寮予定。学生寮は通学が難しい学生が優先されます。



National Institute of Technology, Kagoshima College

12

グローバル 高専はGlobal!



ハワイ語学研修



ベトナム学生交流



スウェーデン学生交流



台湾研修

過去3年の海外研修プログラム(5人以上参加のもの)

年度	プログラム名	学生数
H28	スウェーデン・ストックホルムNTI異文化研修	8
H28	ハワイ大学・カウアイ・コミュニティカレッジ語学研修	11
H28	タイ・カセサート大学異文化研修	9
H28	フランス(トゥールーズIUT及びモンペリエIUT)学生交流	7
H28	台北科学技術大学異文化研修	7
H29	スウェーデン・ストックホルムNTI高校、ウブサラ大学異文化研修	9
H29	ハワイ大学・カウアイ・コミュニティカレッジ語学研修	8
H30	台湾サマープログラム	8
H30	スウェーデン・ストックホルムNTI高校異文化研修	8
H30	ハワイ大学・カウアイ・コミュニティカレッジ語学研修	7
H30	NZ・ALA工科大学語学研修	7

25

過去3年間の海外インターンシップ

H28	TOTOベトナムインターンシップ	1
H28	シンガポール・Jurong Engineering Limitedインターンシップ	2
H28	中国・安川電機有限公司インターンシップ	1
H29	マレーシア工科大学インターンシップ	1
H29	タイ・MK Watertechインターンシップ	1
H29	シンガポール・Jurong Engineering Limitedインターンシップ	2
H29	フランス・モンペリエIUT、トゥールーズIUTインターンシップ	2
H30	タイ・カセサート大学インターンシップ	1
H30	タイ・MK Watertechインターンシップ	1
H30	マレーシア工科大学インターンシップ	2
H30	シンガポール・Jurong Engineering Limitedインターンシップ	2
H30	フランス・トゥールーズIUTインターンシップ	1
H30	ドイツ・ライプニッツ工科大学インターンシップ	1

26

鹿児島高専の新たな取り組み

27

①令和元年度から5年間で高専機構の「グローバルエンジニア育成事業」に採択される。

グローバルエンジニア基礎力としてのICTスキル、問題解決力、グローバルマインド育成事業

外国人教員によるICT、PBLの実施(日本人教員へのFD)で、英語によるエンジニアリングコミュニケーション能力の育成。

28

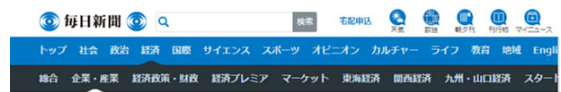
②NECと連携した、顔認証システムの導入

学生寮と図書館の改修工事が終わったことに伴い、図書館と、新女子寮に、顔認証システムを導入予定

(今後の活用予定)

- 女子寮では、入り口にカメラを設置し、セキュリティ対策に加え、1日3回ある点呼の1回を、顔認証で実施
- 図書館ではセキュリティ強化の他、利用統計にも活用
- さらに、NECと連携して、顔認証プログラムを使った、プログラミング教育の実施

29



セブン-イレブンの実験店舗では専用端末に設置された小型カメラで顔を認証し、商品購入を自動決済できる。東京都港区で2018年12月17日午後0時33分、今村真樹撮影

セブン-イレブン・ジャパンは17日、東京都内に無人レジの実験店舗を開店した。NECの顔認証技術を使い、客がカメラに顔を近づけるだけで決済できる。人手不足が続く中、省人化とキャッシュレス決済を進める狙いがある。セブンは利用者が限られるオフィスビルや工場内などの小型店舗に、国内コンビニ初となる顔認証技術を展開する考えだ。

実験店舗は、NECグループが入居する港区の三田国際ビル20階に設置。利用はここで勤務するグループ社員約6000人に限定される。顔写真を登録する必要があり、入り口では顔認証で入店し、商品購入はバーコードを専用端末で読み込み顔認証決済を選ぶと給与天引きで決済される。

顔認証のプロジェクトリーダーは、本校の卒業生

30

③長島町指江庁舎内に
「長岡技術科学大学・鹿児島工業高等専門学校
長島大陸夢創造キャンパス」を開所（2019/10/28）



多様な分野で相互に協力し、
地域との連携強化を通じた産業活性化

31

研究・地域連携について

32

科研費申請・採択状況（過去5年間）

区 分	基礎研究 (A)		基礎研究 (B)		基礎研究 (C)		挑戦的萌芽研究*		挑戦的研究 (萌芽・萌芽)	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択
平成 27 年度	0	0	2	0	17	1	18	2		
平成 28 年度	0	0	3	0	20	1	17	1		
平成 29 年度	0	0	2	1	29	4			11	1
平成 30 年度	0	0	5	0	34	1			5	—
平成 31 年度	1	0	0	0	35	6			7	—
区 分	若手研究 (A)		若手研究 (B)		奨励研究		研究活動スタート支援		計	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択
平成 27 年度	0	0	20	2	13	5	1	1	71	11
平成 28 年度	0	0	14	0	13	6	2	—	69	8
平成 29 年度	0	0	12	2	13	4	0	0	67	12
平成 30 年度	6	0			12	3	1	—	63	4
平成 31 年度	9	2			12	3	0	0	63	11

***若手研究 (B) は、平成 30 年度より若手研究に統合されました。

***平成 30 年度基礎研究 (B) 申請の内訳 (一般 3 件、特設 2 件)

33

●地域との連携 Cooperation with Local Community

●自治体との包括連携協定 Cooperation Agreement (Local Government)

平成 26 年 12 月 8 日	日置市
平成 27 年 3 月 31 日	霧島市
平成 29 年 1 月 19 日	長岡技術科学大学、長島町

●その他連携協定 Cooperation Agreement (Others)

平成 19 年 6 月 27 日	鹿児島県技術士会
平成 24 年 3 月 27 日	株式会社南日本新聞社
平成 24 年 6 月 13 日	隼人錦江スポーツクラブ
平成 29 年 10 月 31 日	NPO 法人隼人錦江スポーツクラブ、ココロウエスト株式会社
平成 30 年 4 月 1 日	医療法人仁心会
平成 30 年 12 月 1 日	九州大学等

2020.3.18 南九州ケーブルテレビネット(株) と連携協力

34

●鹿児島高専テクノクラブ The Kagoshima Kosen Techno Club (KTC)

南九州地域の有志企業が、地域との連携強化を学校の理念の一つに掲げている本校と相図って、産学官連携組織「錦江湾テクノパーククラブ」(通称 KTC) を平成 10 年 3 月に設立し、平成 28 年 4 月から、名称を「鹿児島高専テクノクラブ」に変更した。

現在 90 社 (平成 31 年 4 月現在) の会員企業と、鹿児島県商工労働水産部、鹿児島県工業技術センター、かごしま産業支援センター、鹿児島市、霧島市等 16 の公的機関が特別会員として加入しており、会員企業によるセミナーや、会員企業の技術支援のために技術交流会も開催している。

● KTC 会員一覧 (平成31年4月1日現在) KTC Members List (As of April 1, 2019)

一般会員90社 (50音順)				特別会員16団体	
㈱ A-R-P 鹿児島事業所	㈱ 藤田工業	㈱ SENDO	㈱ 萩原技研	鹿児島県商工労働水産部	
㈱ H-I	カマルク特定技術研究所㈱	シーセコンダタマニファクチャリング㈱	㈱ 廣野精密	鹿児島県工業技術センター	
㈱ KOSS	㈱ 川北電工	ソフトマックス㈱	八光工業㈱	かごしま産業支援センター	
KQRM ホールディングス㈱	協立機械㈱九州事業部 鹿児島営業所	㈱ ソフト流通センター	パナソニックデバイス SL&K 九州㈱	㈱ 鹿児島県発明協会	
㈱ Misumi	㈱ 九州タパチ	㈱ 大翔	㈱ 準人テクノ	㈱ 鹿児島県工業倶楽部	
NaturePax.B 合同会社	㈱ キラ・コーポレーション	㈱ 大進	フナツク㈱	㈱ 鹿児島県製造センター	
アサダマックス㈱鹿児島工場	㈱ エンジンエンジニアリング	大福コンサルタンツ㈱	㈱ 久米コンサルタンツ	㈱ 鹿児島県 TLO	
アジアテック㈱	キリシマ精工㈱	太陽ガス㈱	㈱ セゾックス㈱鹿児島㈱	㈱ 鹿児島銀行	
㈱ 豊電(株)	㈱ 豊島実業㈱	㈱ 地球環境 ED ジャパン	㈱ 藤田ワークス	㈱ 南日本銀行	
アルパック九州㈱	㈱ 建設技術コンサルタンツ	㈱ テクノクロス九州	㈱ ベルテ	鹿児島市	
㈱ アルプスエステック	㈱ コアガス日本	東亜エルメス㈱	マイロカット㈱	霧島市	
アロン電機㈱	コーアツ工業㈱	㈱ フロコーポレーション㈱	マトヤ技研工業㈱	薩摩川内市	
㈱ 飯塚製作所鹿児島工場	㈱ 国分電機	㈱ 東玉建設	丸堀建設㈱	曽於市	
インフラテック㈱	小牧建設㈱	㈱ トヨタ車体研究所	三豊機工㈱	日置市	
㈱ 船村組	㈱ 船良製作所	㈱ 永田鋼管工業	㈱ ひともコンサルタンツ	鹿児島市産業支援センター	
㈱ 栄電社	㈱ サタコンサルタンツ	㈱ 南光	㈱ 南日本情報処理センター	鹿児島工業高等専門学校	
エイムネクス㈱	㈱ サス	㈱ 国産産㈱	㈱ 明興テクノス		
㈱ エス・デー・ラボ	㈱ 山本	㈱ 衛生建設	ヤマダテ㈱		
㈱ エリアーク	㈱ 昭光エレクトロニクス㈱	㈱ 日汽工工業㈱	㈱ エー・エム・アイ		
㈱ オーケー社鹿児島	㈱ 徳栄製作所鹿児島工場	日建ラース工業㈱	㈱ ユビシル鹿児島		
㈱ カーネギー産業	㈱ 新日本技術コンサルタンツ	日本地研㈱	リニューアブル・ジャパン㈱		
㈱ ガイアテック	㈱ 東建建設	日本特殊陶業㈱			
㈱ 田建設	㈱ 西栄建設事務所	日本モレックス合同会社 鹿児島サイト			

35

～質疑応答～

【本間委員長】

今まで説明されました事項や事前配布がありました資料その他につきまして、委員の方々からご質問、ご意見を頂きたいと思えます。そのご意見、ご質問を受けまして、鹿児島高専の側から回答や意見を伺いたいと思えます。委員お1人当たり約3分程度でご質問を頂き、それに高専側から回答する形式で進行していきたいと考えております。今回は、教育、研究を中心に意見交換を行いたいと思えますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、外部評価委員会規則第3条規定の第1号委員から順にお願いしたいと思います。まず、河野委員からよろしくお願いいたします。

【河野委員】

項目毎に話をさせていただきます。

まず、事前質問に対する回答の通し番号の7番です。少し分かりづらい記述がありましたので、質問させてもらいましたが、回答の説明でよく理解できました。原稿を作られる場合は、見る立場で内容が分かるように心掛けていただければよろしいかと思えます。

それから、次が9番の採用に至らなかった応募者数。回答から、非常に応募者が少なかったことを実感しまして、差し支えなければ、それを報告書に書いておいてもらえれば、この質問はなかったということになります。

14番、ここでは、いわゆるCBTという質の保証をするやり方が紹介されていまし

た。このCBTの内容を知りたいと思えて、平成30年度から全国の高専で実施しているということですので、その分析結果があればということで質問をいたしました。

15番、機関別認証評価がありました。問題となるところや、改善を要するところとして、どのような指摘があったのかということで、質問をしております。回答を見て、内容はよく理解できました。

次に、30番です。何故この質問をしたかということ、事務職員の約42パーセントの13名という記載が理解できなかったのです。というのは、当時、私が記憶している中でも、1番多い時で70数名の事務職員がおりました。だんだん少なくなってきたとのことだったので、この数が31名まで削減されているということで、回答を頂きまして、びっくりいたしました。

最後に、33番です。事前コメントということで、①、②、③、④点コメントを書いております。

まず、①ですが、この自己評価を見た時に、PDCAサイクルが成されておらず、書いてあるのはPDまでしか書いてありません。目標は立てました、やりました、それでどうだったのですかという評価やそれに伴う改善が何も書いてない。これでは評価のしようがないなと感じたのです。

それから、②の数値目標がないということ。

また、③番の自己点検・評価報告書は、4つの大項目で分類されています。ここは、学校既定のどの上位の規定からきているかといいますと、私は、この学校で1番大事なのは、理念と目標だと思います。これが学校要覧の3ページのところに書いてあり

ますが、これが1番大事な学校として進むべき道を意味していることになりますので、これを基にして、評価項目を立てられるのがいいのではないかと思います。機構の内容と一致してもいいと思うのですが、やはり、学校としての理念から4項目が出てきたという形で捉えるべきであろうと感じます。

④のコメントで最後になりますが、鹿児島高専では、多くの施策や取組みが行われております。教職員の勤務につきましては、多忙の状況がよく理解できます。私も鹿児島高専で、非常勤を含めて、50年間教職を経験しているわけですが、その中でも大変な行事や事業をされていると感じております。せっかくですから、自己点検・評価報告書は、対外的に公開されるという話を聞きましたので、やはりPDCAサイクルによる簡便な報告書という形で出していただけだと思っております。以上です。

【氷室校長】

ご質問を頂き、ありがとうございます。私も初めて外部評価委員会に参加しましたが、確かに河野先生がおっしゃるように、主に年度計画に基づいた自己点検になっておりまして、大変申し訳ないと思っております。今後、本校の教育理念や目標を念頭に置いて、PDCAサイクルがきちんと回っていることがはっきりとわかるような形で自己点検・評価報告書を作っていきたいと思っております。

それから、教員公募に関しまして、私は昨年度まで米子高専で校長をしておりましたが、田舎に行けば行くほど、非常に難しいと思われまます。山陽の方は結構いろいろ

な人が集まってくるのですが、山陰はそうでもないのです。鹿児島でも似たようなところがあって、人がなかなか集まってこないのが現状です。我々ももう少し鹿児島高専の魅力を打ち出して、人が集まるような組織にしていきたいと思っております。

【松田副校長（教務主事）】

CBTにつきましては、高専は以前、3年生になると、学習到達度試験という数学と物理の全国共通の試験を春に1回やっていました。それに替わるものとして、新しいCBTが導入されまして、科目に関しましては、物理、化学、数学に始まり、専門科目も今年トライアルで始めました。

ただ、始まったばかりということもあって、実は正直にいうと、問題が一定していないことがございます。例えば、CBTは、当然、共通問題になるのですが、何種類かの問題のセット、Aセット、Bセット、Cセットがございまして、実施時期によって問題が変わってきます。例えば、本校でも1日で5学科全部をするということはパソコン室の関係でできなかったりします。そこで、日にちを分けて行うのですが、問題のセットが変わったりすると、同じジャンルなのに、途端に分析結果や平均点含めた各ジャンルの問題の正答率等が、あるセットでは非常に高い点をとって、あるセットでは非常に低い点をとる。このように、問題の水準もまだ一定していないという感じなんです。機構の方も大分、改善をしようとしているのですが。

本校も前教務主事の須田先生がCBTの特に数学の結果を授業の方で生かせないかということで、分析をされていますが、な

なかなか簡単にはできていないという状況があります。今年もまた結果を分析していたいており、今後も引続き、行っていきたいと思っていますが、始まったばかりということもあり、思うような分析ができていないところです。以上になります。

【仮屋委員】

工業技術センターの仮屋でございます。私は評価項目の2「社会連携に関する事項」を確認したのですが、先程、プレゼンを聞かせていただきましたので、いくつかご質問させていただきます。

スライドの25ですが、過去3年間の海外研修プログラム5人以上の参加のものというところと、その次のページの過去3年間の海外インターンシップのところで、年度により、いろいろな国々に研修プログラムを計画して行っているとのことですが、この研修計画は、高専独自で作られたものなのか、それとも高専機構全体でこういう枠があって、それを利用して行くのかということが第1点です。

また、海外インターンシップに関連して、海外からも結構来ているとお話でしたが、どこの国から来ているか教えていただきたいと思います。

それから、グローバル化を目指すということで、英語のTOEICの500点ということを目指しているとのことですが、外国から来ている先生は何人ぐらいかお聞かせください。これが教育の方のご質問でございます。

それから、評価項目の2の情報発信というところで、私はここを主に読ませていただいたのですが、高専には、地域共同テク

ノセンター、KTCと地域連携の組織がありまして、企業の方が入って活動しているのがKTCだと思います。ここでKTCの会員数が現在99社ということで、最近、非常に増えてきていると感じております。いろいろな企業の方々がいらっしゃって、活発に活動されていると思うのですが、このKTCに参加されている企業の方と一緒に連携してやっているような事例をいくつかご紹介していただけたらと思っております。私からは以上です。

【徳永副校長（国際交流担当）】

ご質問、ありがとうございます。

まず、国際交流に関して私の方から回答させていただきます。

最初に、教務主事がプレゼンをされた海外研修プログラムと受け入れについてですが、これは様々です。高専機構が企画して、全高専に投げてくださいるようなものや本校独自でやるもの、または、複数の高専で協力してプログラムを組み、参加者も複数の高専から募り、引率教員も参加校から出すといったようなものがあります。この25ページのものでいうと、例えば、上の方からいくとスウェーデンのストックホルムNTI、異文化研修というのは、本校独自のプログラムになります。ハワイ大学というのは、富山高専、鹿児島高専、徳山高専といった日本各地の高専が協力して、乗り合わせていっているようなものもございます。それから、タイのカセサート大学異文化研修というのは、有明高専がメインでプログラムを組んでくださって、それを「九州内の高専が参加してもいいよ」という形でやっております。特に九州地区の高専というのは、

他の地域と比べると、連携がうまくいっていますので、インターンシップ等は、かなり協力して計画しています。これが 1 点目です。

それから、本校で受入れる相手の国として多いのは、マレーシアです。「さくらサイエンスプラン」というものを利用することが多いのですが、大体 10 人単位のマレーシアの学生さんに 1 週間、来てもらって、様々な科学体験や授業への参加、本校の学生との交流を行ってもらっています。マレーシアは、毎年、2 件ずつのペースでやっています。

それ以外にコンスタントに続けているのは、フランスとスウェーデンからの学生受入れで、インターンシップに参加してもらったり、授業に参加してもらったりしています。国でいうと、マレーシア、スウェーデンからの取組み頻度が高いです。

外国人の先生は、今 1 名おられまして、英語の先生です。新たに 4 月からもう 1 名、中国籍の先生が社会の先生として入られる予定です。ですので、4 月から外国人の先生は 2 名となります。

【宮田校長特別補佐】

KTC との連携ということで、今やっているのが、技術研修会というもので、年 3 回行っています。講演会とその後に教職員との懇談会みたいなものをして、そこで協力、連携を深めていくことをやって来ています。

COC+関係でも、主に KTC の企業の方に協力を頂いたりして、そして、資料の 6 にありますが、キャリア教育みたいな形で、各クラスに対して、企業から来ていただい

て、企業や地元のことをいろいろ説明していただいております。1 年生と 4 年生に対しては、地元の企業が入って説明を行っていただいております。それから、3 年生については、企業の見学。それから、2 年生については、霧島市の方から来てもらって、地域の説明をしていただいております。

それから、企業セミナーです。5 月に保護者懇談会があるのですが、その時に KTC の方も一緒に参加していただき、保護者向けの企業セミナーを開催しています。1 月には、今年は霧島市と KTC 合同で、4 年生向けの企業セミナーを行いました。

この他、共同研究も行っています。

【鶴ヶ野委員】

私自身ももう 5、6 年、会議に出席させていただきまして、この 5、6 年、高専の皆さんがやっておられる様々な取組みも、それとなく理解しながらやってきて参りましたので、自己点検・評価に対して、個々に細かい質問というのはしていなくて、総合的な質問として 34 番と 35 番を挙げさせていただきました。

何分にもこういった自己点検・評価というのは、PDCA の C の部分ですので、ここでチェックした内容で、どのような課題が見つかったのか、その課題に向けてこれからどう対応していくのか、あるいは、今は課題として捉えていないが、これから予測される課題はどのようなものがあるのだろうかということを質問させていただいて、出てきた結果が今こちらに書いてある話です。

同時に、今回のこういった点検の結果を見て毎年思うのは、計画していたことを実

施すると A、実施できなければ B という話なのですが、その実施したことが本当に成果として出たのかどうかというところを本来、評価すべきなのだろうと、思っております。何でも計画したことを実施して A というならば、的が当たっているのか、当たっていないのかということがもう一つ評価されていないのでは、ということを感じておりますので、次年に向けてその辺りをもう少し深く、1 つ 1 つの実施項目を検討された方が成果に近づいていくのではないかと、これは意見として述べさせていただきます。

今回、最も良かったなと思うのは、最初のご説明の中で、卒業生にアンケートをとられて、本学で 5 年間、学業を通じて得られたものを分析、いくつかの質問をされて、評価されて、私は、すごく良い取組みをされたと思っています。何分にもこの高専を選んで、そして入ってきた学生が 5 年間ここで学業を通じて、学びを得て、卒業の段階でどれくらい満足したのかというところをきちっと捉えられたということは、まずもって次へ繋がる 1 つのポイントにもなるし、資料にもなってくるだろうと思います。

また、このアンケートの内容についても、年々「いや、本当はこんなことを我々は認識したかったのだ」ということが 1 回アンケートをとると、それなりに「もう少しこういうことを聞けばよかった」「こういうことを本来は問いかけた方がいいのではないか」ということも出てくることがこれから予測されますので、是非、継続してやっていかれたらどうかと思います。

我々、企業においては、お客さんの満足度、今、世の中では、よく、CS、Customer

Satisfaction あるいは ES、社員満足度ということが言われておりますが、やはり当事者にしっかり声を聞くというのは、大事なことのだろうと思います。直近で卒業していく学生にこういうアンケートを出されたということは、大きな 1 つの進歩なのだろうと思いますので、是非これはまた翌年に向けても継続してやられたらどうかと思います。

そして、私は KTC の会長もやっておりますので、最後に一言申し上げたいのは、従来、産業界から頂くニーズに対して、高専が持っているシーズみたいなところを連携づけるという意識がすごく高すぎて、なかなか産学連携も思ったほど進みません。よくよく教育ということから考えると、逆のケースもあるのではないかと。この地域にもいろいろな技術を持った企業が数多くありますので、その技術の変量を少し学生に向けて、ということで、最近では特別講義やあるいは工場見学を含めて逆に企業側が持っている技術を少し学んでいただくという取組みも、徐々にですが、増えてきました。やはり、お互いにどうやって連携を結ぶかということになると、何も雇用や共同研究ということだけでもなくて、学びあう 1 つの会議であっていいのではないかと常々思っております。

いろいろな企業が、もう 99 社になりましたので、これは多分、県内の学校の中に組織された産学連携の企業数としてはかなり多く、3 桁に届くところまで来ましたので、どういう関連性を持ち、どのようにこの KTC をお互いに活用、利用しながら、より KTC の会が進化していくのかというところをまた一緒に考えさせていただければあ

りがたいと思いますので、是非、KTC といえば地域共同テクノセンターさんなのですが、他のいろいろな先生方におかれまして、KTC という組織を活用、利用していただきたい。100 社に近い企業がもう後ろ盾としてありますので、何らかの形でより連携が深まりますように、これもアイデアを頂けたらと思っております。そのアイデアがここで聞けるとは思っておりませんが、何らかそういうところに対して、「こういう関連もできますよね」「こういう取組みもできますね」というお話があれば、翌年の参考にもさせていただけると思いまして、本日は参りましたので、是非よろしくお願ひします。

【氷室校長】

ありがとうございます。最後の方からお話をさせていただきます。近々に KTC 企業様の数を 100 社にしたいと思っています。もうすぐもう 1 社入られますので、3 桁になります。私も是非、会長がおっしゃった「一緒に学び合う」そのような組織にしたいと思っております。特に、私は、できれば低学年で、1 年生あるいは 2 年生で地元の方に会社に出かけて行って、会社の現場を知って、会社の魅力を知るような、そういう取組みはできないかと思っています。具体的には「地域学」といった新しい科目を導入してみるのも 1 つの方法かなと考えているところです。現在は地元への就職率は低いですが、我々の認識を高めて、地元への就職率を高め、地域をもう少し活性化できるように高専にしたいと思っています。

また、卒業生に対するアンケートについ

てコメントをいただき、ありがとうございます。アンケートは、今後、卒業生だけではなくて、1 年生から 5 年生、それから専攻科生も含めて、毎年とっていき、学生の変化を追っていきたいと考えています。

それから、年次計画における実施項目に数値目標を入れ、それぞれに達成できたかどうかという自己点検評価をやっているのですが、今の在り方を少し見直させていただいて、きちんとした形で公開できるようにしたいと思っています。ありがとうございます。

【山口委員】

まず、通し番号 1 番から 6 番の項目になります。

後で分かったことなのですが、国分出身で加治木工業高校に行った当社の社員がいるのですが、「高専に行くつもりはなかったのですか」と聞いたら、それは 40 年前に入学した社員なのですが、「中学校の先生から進路指導を受けなかったから、知らなかった」ということで、「もし知っていたら、是非行きたかった」という声を聞いて、何がきっかけで高専を受けるかというのが分からないので、中学校の先生や塾の先生、ご両親、友達、あらゆるところにアプローチする必要があると改めて思いました。

もう 1 つ別の事実なのですが、今日の松田先生のお話にもあったのですが、今年、加治木高校を受験した中学 3 年生の方に合格発表の翌日に会って、「合格してよかったね」と言ったら、「どうも高専に行く人がいっぱいいて、実質、定員割れみたいです」と先程おっしゃったとおりのことを言っていたので、それが中学生の間でも知られて

いるというのは、とてもいいことだと思って、高専の価値がそれだけあるということ、中学生もかなり認識し始めているということで、そういった地道な活動を通して、始まっているのかなと思って、その時嬉しく思いました。

1 から 7 に関して、もう 1 つだけなのですが、先程、松田先生のお話を聞きながら思ったのですが、東大野球部という 6 大学で断トツに弱い部があって、何とかして強くなろうとして、高校 3 年生に対して家庭教師をずっとやって、高校 3 年生の強い野球部の人を何とか入れようとしている活動を前にテレビで見ました。高専も、夏休みにそういったセミナーや半年間の家庭教師をやって、「高専に来て下さい」とアピールする、そういうことができるのか分かりませんが、学生にアルバイト代を払ってやってみるのもよいかもしれません。そういった継続的な活動をやると、より倍率が高まるのかなと思いました。

2 番目ですが、通し番号の 20 番、いじめに関することなのですが、私の身内がいじめにあいまして、最近いじめについていろいろと当事者としても関わることになったのですけれども、ここに書いてあります事前コメントの中の②を一番お伝えしたいと思ひまして、いじめられている人は弱者なので、「おまえで何とかしろよ」という対応ではなく、1 日も早くその苦痛から解放されるように、できれば学校のカウンセラーの方等、守ってあげていただきたいと思いました。

最後なのですが、通し番号 29 番についてです。私自身は、大学院生の時、研究と英語をやるうとして、商社に勤めた後、仕事

でも英語を使う仕事だったのですが、結局、うまくいかず、英語がうまくならなかったのですが、その反省からいえることは、的確な目標を設定して、それに対して事前に何をやるか、行ってから何をやるのか、帰って来たら何をやるのかということを計画することが効果的なのではないかと思います。その辺りの目標設定とそのレビューというのでしょうか、そういうことをやっていただきたいと思います。以上です。

【松田副校長（教務主事）】

受験者の問題についてですが、先程もお伝えしましたように、特に、鹿児島県全体ももちろん厳しい状況の中で、始良、伊佐地区は、とりわけ厳しい状況が続いている中で、今まで以上の PR を行うためには、一層積極的に取り組んで行かなければならないと考えております。ご指摘のとおり、何がきっかけで高専を志望するようになるか分からないので、決まりきった PR ではなく、本当にあの手この手を次から次に考えていかなければならないと考えております。そういう意味でも、今年度作りしましたプロジェクトチームがまたいろいろなアイデアを出しながら、先程の始良の出前の PR も若手のプロジェクトチームに入っているメンバーから「是非 1 回行ってみようじゃないか」という声があがってきて、「じゃあやろう」ということで、始まったことなので、そのような意見をどんどん拾い上げながら、今、PR の展開を今後も続けていきたいと思っております。

それから、本校でも、いじめはもちろんないわけではございません。ただ、あまり大きな問題に発展しないうちにある程度見

つけながら、もちろん学生何でも相談室が中心になって対応していくのですが、各担任や学科、部活動の顧問の先生等、いろいろなところで目を配り、学生と密にコンタクトをとる中で、そういうものを早めに摘み取っていくような活動をやっているのが本校の特徴ではないかなと思っております。いじめに関しては、本当に目に見えない部分がまだたくさんあるかと思っておりますので、その辺りは本校の相談室やカウンセラーの先生等、いろいろなところと連携して、学生向けの研修を怠っていたという指摘もありましたので、もちろん研修も通して、より一層その辺を充実させていきたいと思っております。

【室屋校長特別補佐】

いじめられている学生に関しては、相談室自体の問題かもしれませんが、相談件数が非常に少なく、いじめのことで相談に来るという子もなかなかおりません。

その中で、実際に相談室で対応したというのは1件だけございました。それは、どうしてもクラスの中で溶け込めず、段々なじめなくなってきたため、教室に足が向かなくなったという事例であったのですが、その件については、担任そして相談室、カウンセラーで情報を共有しながら、クラスの中から当該の学生に来てもらうようなことをやっていただいたりした、そういった事例はあります。

相談が少ないというのは、こちらに多少問題もあるとは思いますが、アピールした問題に対しては、相談室のメンバーでしっかりと対応するつもりはあります。以上です。

【徳永副校長（国際交流担当）】

29番の項目について、頂いたコメントを聞かせていただきましたが、ご指摘いただいたとおりでございます。的確な目標というのは、やはり大事であると痛切に感じておりまして、それを使うことがグローバルエンジニアなので、これから外国人と一緒にグループを組んで新しい価値を創造していくということを求められるわけで、そのために、高専5年間の中で何をすべきかということをしちゃんと学生が自分の内にあるのだということをしっかり理解してもらって、勉強というよりは、自分に役立てるものとして、的確な目標設定ということをしていかないといけないと思います。

普段、本校の学生は、高専生全般にいえるのかもしれませんが、英語がどうしても苦手だということが前提にあって、その1歩を踏み出す勇気がないというか。学生に話を聞いていると、「英語ができるようになったら、海外研修も考えていきます」と、そういうコメントが返ってくるので、まずは、その1歩を踏み出す勇気を持ってもらうためにも、学内でもグローバルエンジニア育成事業を推進するためのプロジェクトチームを今度新しく結成しました。各学科から2名位ずつ、比較的若い先生やこれからの国際交流を担っていく先生達を推薦してもらって、チームを組みました。そういう先生方とチームを組んで、学校全体でグローバルの機運というか、モチベーションを高めるところをまずしっかり基礎として作って、実際に何を達成しないといけないかという目標を明確にし、学生に対する教

育を進めていきたいと考えています。ありがとうございます。

【中重委員】

私に割り振られたのは、教育に関する事項の中の入学者の確保と国際交流に関する事項となっているのですが、どうしても立場上、地域連携を踏まえた上でのご質問やご意見となることをお許しいただきたいと思います。

入学者の確保につきましては、先程からありますように、霧島市内の県立高校、市立高校も大変な状況ですので、お手柔らかにお願いしたいと思います。どうしても試験日程の裁量もあって、高専の優位性は変わらない中で、いい生徒をとるための努力はしていただきたいと思いますが、私たちもまた頑張って参ります。

この教育に関する事項で、もう1つ、学生支援・生活支援の項目の中で奨学金の報告も出ておりましたが、報告をよく見ますと、恐らく取り上げていただいていると思うのですが、霧島市の奨学金のことが書かれていないのですね。霧島市の奨学金は全国でも自治体の奨学金としては一番優れているのではないかと自負しております。と申しますのも、大学、大学院、短大また専門学校、その他をすべて含めて、そして、また短大なら2年、大学なら4年等というのではなくて、行っている期間に対して奨学金を与え、そして、地元に戻ってきて、5年間住んで、5年間霧島市の企業で働けば半額、10年間住んで、10年間働けば、全額免除という仕組みになっております。このような免除の制度もあるわけですので、これがまた将来的には高専の子達が地元で働くことに繋がる奨学金になっているのかと

思います。是非、そういったところの周知を行っていただければと思います。

そして、国際交流の話も、また英語力向上の話もございました。私は、霧島市の国際交流協会の短期留学の壮行会や報告会にいろいろ出るのですが、高専の子がそこにいたのを見たことがないのです。今、霧島市の国際交流協会の会長は、高専出身の末廣 浩二会長でございます。そして、普通のホームステイ、例えばアメリカ等へのホームステイもあれば、それこそマレーシアのマラッカにある昔のラサールの流れを汲むセントフランシス学院との交流、もしくは、上海の嘉定区が行っている全世界からいろいろな学生を集めて全世界の学生が交流するプログラム等、そういったものを霧島市の国際交流協会の方でも持っています。また、マレーシアのセントフランシス学院の子達を自宅で受入れる等、そういったプログラムもあり、最近に加治木高校や第一高校の生徒さんがよく参加してくれています。今まで、国際交流協会には、私が市議を務めていた頃に始まり、市議、県議、そして今と結構長く出ているのですが、高専の子を見かける機会がなかったという気がいたします。そういったプログラムも有意義に使える部分だと思いますので、是非有効に活用していただければと思います。

大体そういったところを踏まえた上で、将来的に、先程、校長先生からもありましたように、地元で輝いてくれる卒業生がたくさん増えていくことを、できればこの点検の中に地元で働く卒業生の目標が出てくるようになればいいなと思いながら見ていたところでした。また今後とも連携して進めていければと思いますので、よろしくお願

いたします。

【氷室校長】

ありがとうございます。最初の高校と高専の話ですが、全国的に見れば、高専に進学している生徒の割合というのは1パーセント未満なのです。ですから、高校に比べると、かなり小さな組織であるということで、我々としても高専の魅力をどう打ち出していくかという点で悩んでいるところです。やはり地元の企業、あるいは、地元の皆様の生活も含めて、支えられるような学校にしていきたいと思っております。是非、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それから、霧島市の奨学金のことに関しましてですが、本校にご案内いただきました奨学金については、全て学生に対して案内をしております、それぞれ希望する学生は利用するように、呼び掛けを行っていると

【徳永副校長（国際交流担当）】

ありがとうございました。霧島市の海外研修プログラムは、事前研修、事後研修も含めてすごく充実したプログラムだということは聞いておりまして、参加させたいのですが、いかんせん今のところ中間試験、期末試験の実施期間が高専と普通高校では違いますので、被ってしまって、今のところ参加したくてもちょっと難しいというところが現実にあります。ただ、それを校長先生と教務主事ともそういう現状があるということを相談して、何とかできないか、できれば、その行く子に関しては、定期テストの何らか代替を考えて、そういう形で

是非参加させられるように、今検討をしているところです。

他には、国際協力 CIR の方等にも来ていただいたり、うちの留学生が個別に参加したり、霧島市との連携というのは、これからはますます強化していきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

【相良委員】

同窓会長の相良です。

昨年度末、同窓会館が完成し、4月より運営を始めました。計画・建設に当たり、学校の多大なご協力をいただき、目標どおりに立派に完成いたしました。ありがとうございました。

開館に先駆けて、前年に同窓会組織を一般社団法人化いたしました。これにより、会計の明確化を図り、より透明性をもって、在校生を含む同窓生と教職員、後援会のサービスに役立てるように努力したいと思

います。同窓会の動きに対して、ご協力いただけることも、学校の柔軟性の高さだと思います。学校の進めている地域連携組織の中に、後援会と同窓会も加えていただきたい。

一卒業生として評価すると、毎年少しずつ素晴らしい方向へと変化しています。初期にはできなかった早い時期に大学転入など変化してきているので、このことも利点の1つではないかと思

います。毎回、学校の特色という点で、他の高専にない特色を持った地域企業の技術などを取り入れた教育も地域連携の一環で行うとよいのではないで

しょうか。学生に対する支援についてですが、創立50周年において行った2,000万円の国際募

金のような取り組みを第二弾として行い、国外国内問わず学生の教育支援に使用してはいかがでしょうか。

昨年 8 月に、都市環境デザインの川添先生より、実験用の鉄材加工品の依頼があり、当社の隼人工場で川添先生と私と工場長とで打合せを行い、9 月の実験予定日に間に合わせました。暮れに論文の結果と、末尾に協力会社として当社名を載せていただきました。ありがとうございました。

その後、川添先生の紹介で、鹿児島大学の建築科より、鉄と木の接合部試験材の加工依頼がありましたので、すぐに加工し、確認していただきました。これも、大変勉強になり、これからの建築の先端に行く、鉄と木のハイブリッドな接手であり、現実に、東京で建築中の高層ビルで使用されることでした。

学校の研究の中で協力とあれば、KTC の会員や卒業生とダイレクトに相談していくような親密なつながりがあってもよいと思います。

それから、日刊工業新聞に、山梨県に高専がないけれど、5 つの工業高校で専攻科を作って、高専の学生と同じレベルの教育をしようではないかという取り組みの記事がありました。このことは、高専生が卒業後活躍を始めて 50 数年の成果だと思います。

【氷室校長】

ありがとうございます。今度の萩生田文部科学大臣は、所信表明で高専を評価されましたし、今年度、高専にたくさん予算をつけていただき、来年度も継続することになっています。このように高専が非常に評

価されていることもあり、今後、工業高校を高専化するような方向にあるのだと思います。また、四国には、新たに高専ができることになっており、このように、高専が非常に注目されています。我々としてもたいへん嬉しいことです。

それから、同窓会のことですが、私としては非常に大事な組織と思っておりまして、今後はもっと連携して、ときには喝を入れていただきながらやっていきたいと考えております。特に、校内の同窓会組織が活動している様子が私にはよく見えないので、校内組織をもう少し活性化して、同窓会との繋がりを深めていきたいと思います。

【本間委員長】

それでは、最後に私の方から、3 点ございます。

1 点目は、私はよく外部評価でいろいろ言われるのですが、外部評価といいますと、目標設定というのがまず大前提でございます。それと、目標設定に対して、評価する時には、必ず数値目標を出します。多くの委員の先生も話の形を変えて、同じようなことを言われましたが、今回、数値目標の設定がほとんどないのです。グローバルエンジニアリング育成事業というのは、これは文科省関係ですよ。ということは、数値目標を必ず出しているはずですよ。それがどうして今回出てこなかったのか。それに対して、何パーセント達成したといえ、評価できるということなので、この辺りが欲しかったです。

それから、もう 1 つは、国際インターンシップやグローバル支援のことについて書いてありますが、例えば、インターンシッ

プに関しましては、期間については一切書いてありません。1 日行ってもインターンシップですし、1 回行ってもインターンシップ。今、インターンシップについては、実質上のインターンシップというのが企業の方から求められています。1 週間等短期間のものはお客様扱いのプログラムです。高専ですので、実質上、やはり 2 週間あるいは夏休みの長期をかけて 1 ヶ月というインターンシップがこれから重要になって来ますし、文科省もその方向で動き始めています。その辺の考え方が、評価をするという意味では、少し見えなかったのは残念だと思いました。

グローバルに関しましても、いろいろと取組んでおられることは分かりますが、では、どこに何名、要するに、全体の学生数の中の何名を海外に送り出すのだろうか、あるいは、こういう事業をするのだ等ということも欲しかったと思いました。これが 1 つです。

2 つめは、学生は中学から入ってくるわけですね。そうすると、高専ですので、入学後に選択のミスマッチが生じた時にどうケアしていくのかということです。自分はこの学科に入ったけれど、1 年いたら少し違うと感じる学生がいる場合、その際の先生のケアというのはすごく重要で、先生の対応によってはのめり込む学生もいると思います。その辺りのことが少し触れられていたらよかったのではないかと、その意味で、私の質問としては、どういう風に教員を採用しているのかということをお尋ねしたのですが、要するに、研究面とそれから教育面をどう見極めているのかという部分を質問させていただきました。

3 つめです。1 番最後のところで、36 番目に書いてあるのですが、今、グローバル化や少子高齢化でいろいろなニーズがあります。特に、AI や ICT、IoT 等、いろいろなことが出てきて、第 4 次産業革命等いわれておりますが、それに対する具体的な、いわゆる改組などの面における方向性が見えませんでした。何か文科省から「地域に根ざしてください」と言われたからということですが、地域に根ざしたからといって、先端的なことはできないわけではないと、相良さんが先程言われたとおり、地域にはいろいろなことをやっているところもありますので、その辺の方向性、言われたからワーキングで検討した、でも、まとめられなかったというのではなくて、何かもう 1 歩進んだコメントが欲しいと思いました。この 3 点でございます。

【氷室校長】

ありがとうございます。数値目標、次回には是非入れて、検討させていただきます。

それから、中学からのミスマッチの件ですが、15 歳の段階で各専門を選ばせるというのは、中学生の皆さんにとって非常に酷かなと思っております。本当は、くくり入学として一括で受入れて、入学後いろいろな専門を学ばせた上で選択させるような仕組みの方が学生にとってはハッピーな人生を送れるのではないかと考えています。

ただ、よく大人が「あなたは理系に向いている」とか「文系に向いている」というので、子供はそう思い込んでしまいますが、私はそういうことはありえないと思っております。いかにその分野の学問に興味をもつか、もたせるかが重要なことではないで

しょうか。そういう観点からいえば、例えば「機械工学科に入学したけれども、数学が非常に難しいから、面白くない」と思わせるのではなくて、機械の面白さに気付かせることが、教育者としては非常に大事なことなのです。ですから、自分は向いていないと思込ませず、興味を持たせる、そのような教育の仕組みをつくりあげることが我々に与えられた使命であると思います。

それから、最後の点です。実は、先生もおっしゃいましたが、ここが私の知りたいところだったのです。高専というのは、基本的に大学の工学部の教養科目を減らして創設されています。私が高専に就職してからのことで、30年程前のことですが、大学の工学部と同じような教育をやっているならば、高専はミニ大学でその存在意義はあるのかということです。

我々はいろいろと考えました。大学は理論的な技術者を目指しておられますので、高専は現場に出て、すぐ活躍できるような技術者を育てなくてはいけないだろうということです。

基本的に大学は、学問的志向性が強く、システム全体よりも単位操作および単位過程の解析に重点がおかれている解析型の技術者教育を目指しておられると思います。

一方、高専では技術に視点を合わせた工学の応用で、開発・システム・生産技術の教育を行い、ものづくりのできる開発型の技術者教育を目指すべきであろうということです。

その基本となるのは創造性であり、その資質を養えるような教育に取り組んで参りました。具体的には地元の企業と連携してそこにある問題解決を図り、地域に根差す

高専を目指してきました。

ところが、これまでの高等教育機関の流れの中で、地方の大学でも、どちらかというと、高専と同じように地域に根ざすような大学プロジェクトが行われてきています。

それでは、我々高専はこれから一体どこを目指していけば、大学との差別化や特徴を出せるのかということで、非常に悩んでいるところです。

そのような状況で、私が考えておりますのは、地域の文化や産業、生活を支えていく仕組みづくりの中で高専を活かせないかということです。もちろん、その中で国際性というのは非常に重要でありますし、もう1つ、先程少し申し上げましたが、大学と違って、教養に関する知識が弱いという意見もありますので、そこをもう少し強化する必要があるかと思います。つまり、人格が優れた技術者を育てる、そのような高専にこれからできないかと考えているところです。

これから鹿児島高専の魅力をどう出していくか、非常に悩んでいるところでありまして、先生方にご助言をいただければ幸いです。

【本間委員長】

ありがとうございました。

一通り委員からの提言等をお聞きしましたが、その他、ご意見はございませんか。

それでは、ここで30分程度、外部評価委員による打合せを行いたいと思います。外部評価委員の皆さんは、別室へのご移動をお願いいたします。

8. 外部評価委員会講評 及び本校の対応

～外部評価委員会講評～

①PDCA に基づいた評価の必要性

まず、1つ大きかったのは、「PDCA 本来の形の評価をして下さい。」ということです。自己点検・評価のあり方について、C と A の記載がなかったのではないかと、客観的な評価がなされたかどうかをもう一度見直して下さい。いわゆるすべてが数値目標ではありませんが、数値目標が挙げられるものについては、数値目標を掲げたらいいのではないかとということです。

少し補足としまして、「ターゲットを絞った報告書を作られた方がいいのではないか」というご意見と「詳細な報告書と簡易な報告書の作成をしたらいいのではないかと」というご意見がありました。いわゆる外に数値を出せないものは簡易的なものにまとめて、これは多分インターネットに出さざるを得ないでしょうから、そういうものは出して、内部の資料として残すものは、それなりの詳細な報告書を作った方がいいのではないかという意見が出ました。

②イノベーション人材育成への取組みについて

次に 2 つめです。学校として、独自性のある新しい発想の人材教育というのをもう少し考えられた方がよいのではないかとということです。現状では、小さな大学を目指しているようなイメージがあったのだと思います。先ほど、パワーポイントでも、スキル

ある技術者の育成、そういうマインドを作るということをおっしゃっていましたが、マインドを作るということ、イノベーション人材を育成するということを具体的に考えられた方がいいのではないかとということです。

③企業に対する満足度調査の実施と調査結果の検証について

3 つめは、入口に対しても、出口に対しても、非常にいい数値結果が出ておりますので、それは高く評価いたします。今後、企業側の満足度調査を通して、必要な人材、それから教育内容の再検討が必要なのではないかと。出てきてから、学生達がどう活躍するかによって、毎年、同じ企業が採ってくるということは、それなりの高専側に対する期待があるからなのです。では、それがどういった期待なのかという調査が本当に成されているのか。そのことによって課題の捉え方ができるのではないだろうかということで、企業と高専側の共通認識、現状の評価をしたらいいのではないかとということです。

【氷室校長】

皆様、本日は長時間に渡り、ありがとうございました。

特に今日は、「PDCA サイクル」が非常に重要なキーワードとなってしまいましたが、これはもう本当に基本的なところで、私共も平成 16 年くらいからずっと取り組んできたところでございます。まさかここをご指摘されるとは思っていなかったのですが、

今後、きちんと見える化した形でご提供させていただきたいと思っております。

PDCA はぐるぐる回っている高専であると私は思っております。

それから、高専が目指す技術者像ですが、先程も少し申し上げましたが、それは国際的に通用する優れた人格を有する創造性豊かな技術者であり、そういう資質を備えた学生を育てていこうと思っております。

もう 1 つは、大学と違って、新しい社会的あるいは経済的価値があるものづくり・ことづくりができるような、そういう開発型の教育、研究を展開していきたいと思っております。

3 つめですが、先程、申し上げましたように、この地域の産業、生活を支えられるような、地域に根ざした高専を展開していきたいと思っております。これらを通して、高専の魅力を出していきます。

特に、この地域では少子化あるいは超高齢化社会がこれから進んでいくと思われませんが、そういった中で老人の人達が生きがいを出すと同時に、その生きがいが尊重され、活用される社会づくりに貢献する技術者育成を目指したいのです。

これまでの取組みというのは、どちらかというと過去のことを踏襲していく形が多かったと思うのですが、これからは、従来の取組みの延長線上にはない、次元の異なる大胆な高専の働きかけをして、中長期的な観点から確かな結果が出るまで断固として実行していきます。

今後も魅力ある高専づくりに努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。